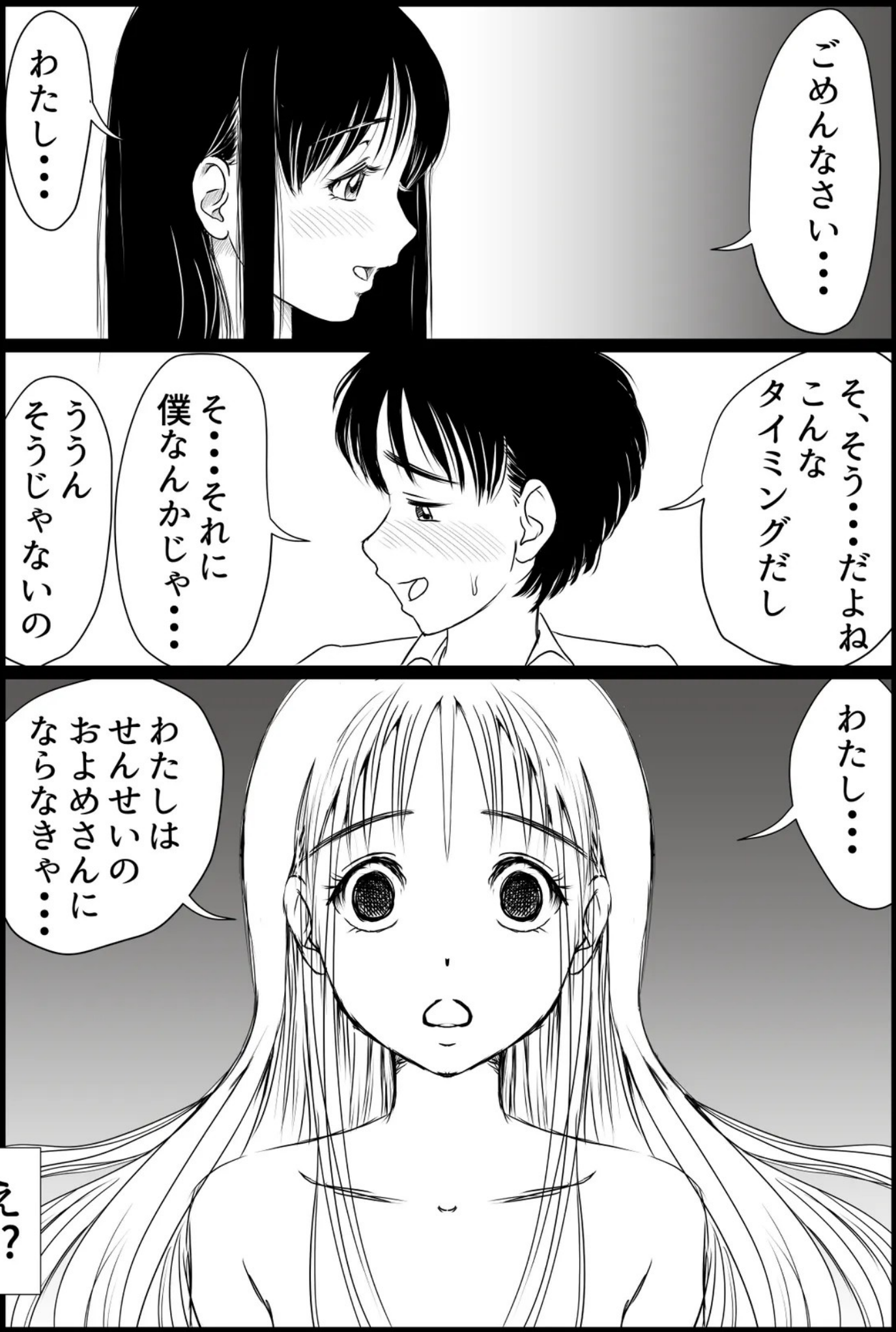

幼馴染はギャルになった
そして僕は陰キャだった


幼馴染はギャルになった
そして僕は陰キャだった


雨宮さん・・・
雨宮・・唯ちゃん
クラスメイトで
僕の片想いの相手だ
学校に入学して
君に出会ってから
ずーっと好きだった
でも、自分に自信が
持てなくて告白できずに
もう3年生になった
勇気を振り絞って
告白しようと決めた
でも、そんな時に
あんな事に
なるなんて


僕が告白しようと
決めた日に
君は僕の目の前で
男性教師に陵辱された

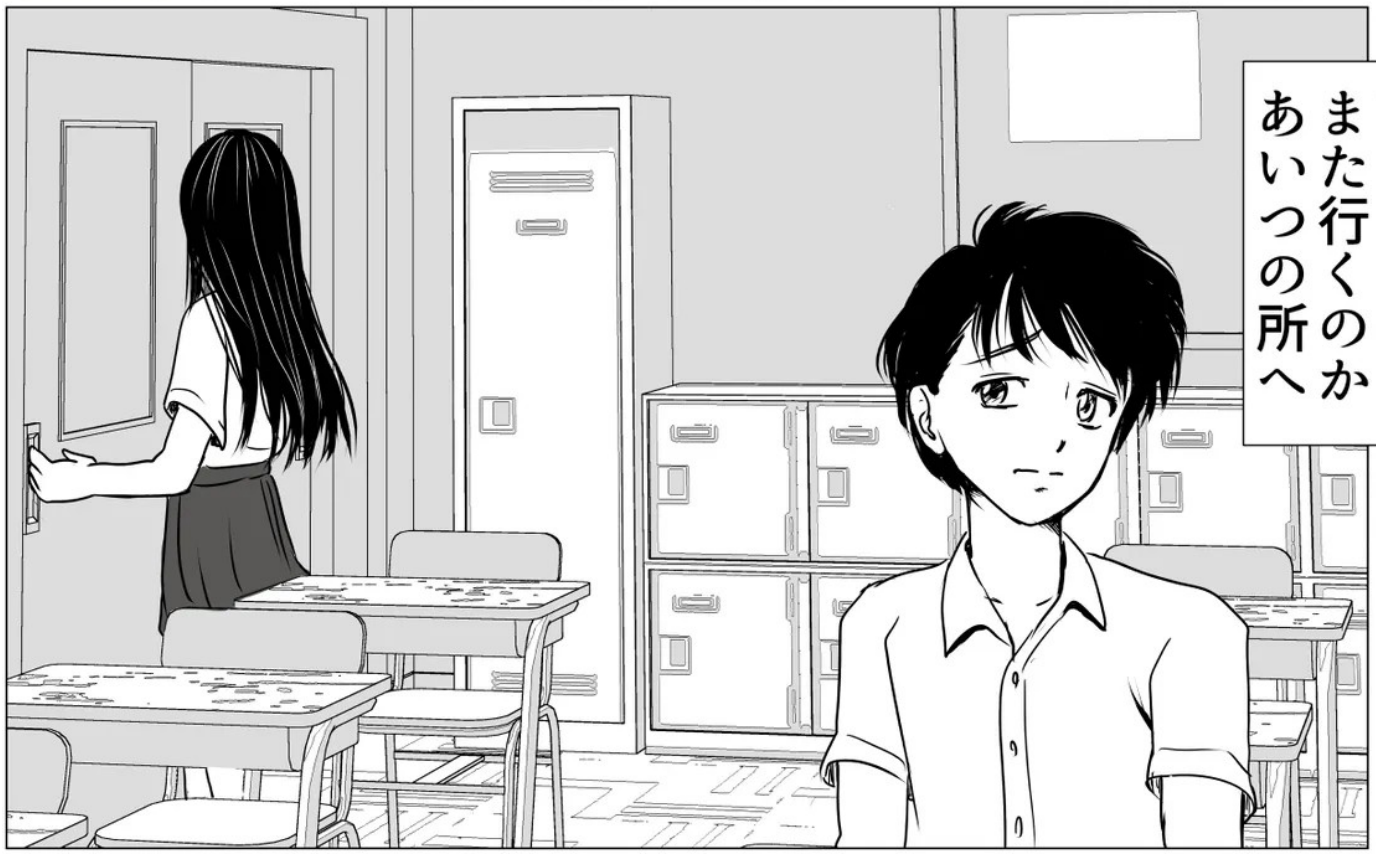

そんなことの直後だ・・・
こ・・・こんな時にアレだけど・・・
タイミングは最悪だけど・・・
けど！今日って決めてたんだ！
僕と付き合ってください！
想いを伝えたいんだ!!


ごめんなさい・・・
わたし・・・
そ、そう・・だよね
こんな
タイミングだし
そ・・・それに
僕なんかじゃ・・・
ううん
そうじゃないの
わたし・・・
わたしは
せんせいの
およめさんに
ならなきゃ・・・
え!?


な！なんでだよっ
なんであんな奴の言いなりに！
だって・・・私の初めてだったし・・・
それに・・・妊娠しちゃったかもしれない・・・
え!?じゃあ・・・もっと早く告白してたら・・・
あなたの気持ちはとても嬉しい・・・私も・・・あなたの事好きだったから・・・

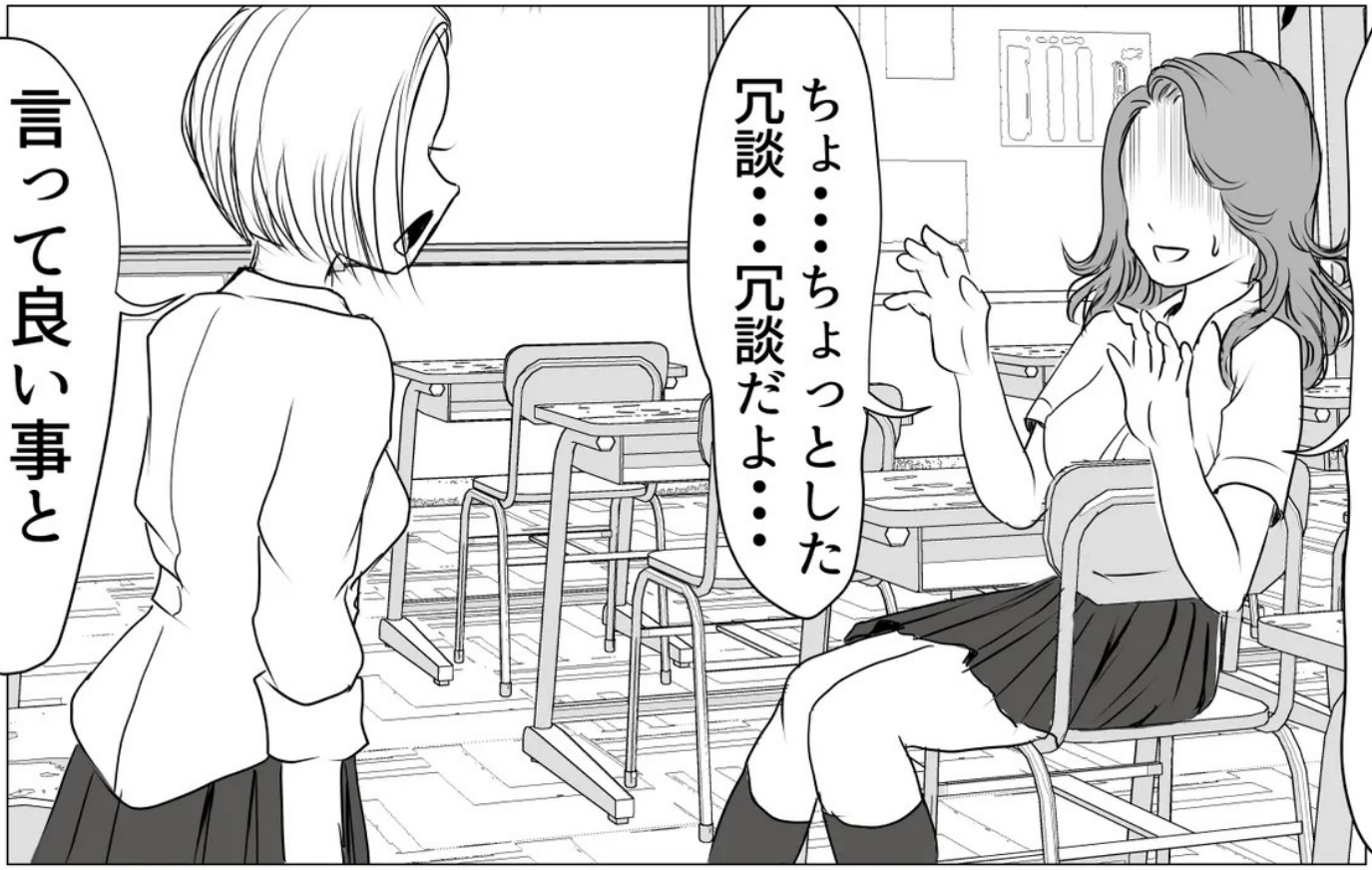

でも・・・もう・・遅いよ・・・
私・・・先生のおちんぽが気持ち良すぎて
先生の方を・・・
好きになっちゃったみたいだから
僕がもっと早くに
告白していたら・・・
彼女に・・・雨宮さんに
こんな思いをさせることは
なかったのか・・・

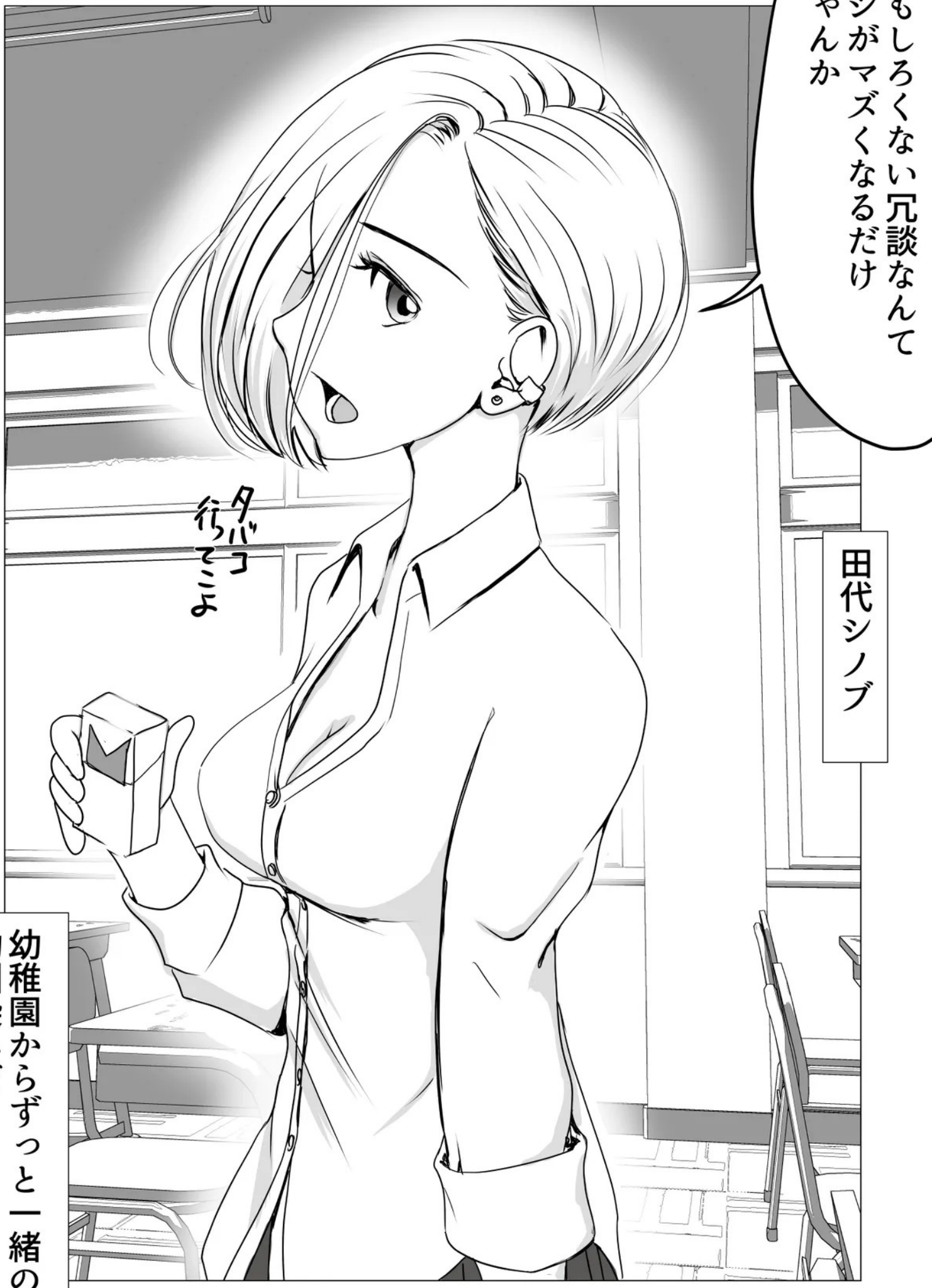

昼休み
ピンポンパンポーン
3年A組、雨宮
至急、生徒指導室
松村までー
ごめん
シノブちゃん
私行かなきゃ
んあ？
髪染めた
ガタッ
りんご


雨宮さん・・・
また行くのか
あいつの所へ


なんか最近雨宮の奴、呼び出しおおくね？
アイツ優等生なのに生徒指導とかウケる！なんかやったのかな？
実は生徒指導の松村とデキてたりしてー
えーじゃあ今頃学校のどっかでヤってたりとかしてな！
うっわー！きっしょ！
クソっ・・・コイツら言いたいこと言いやがって・・・

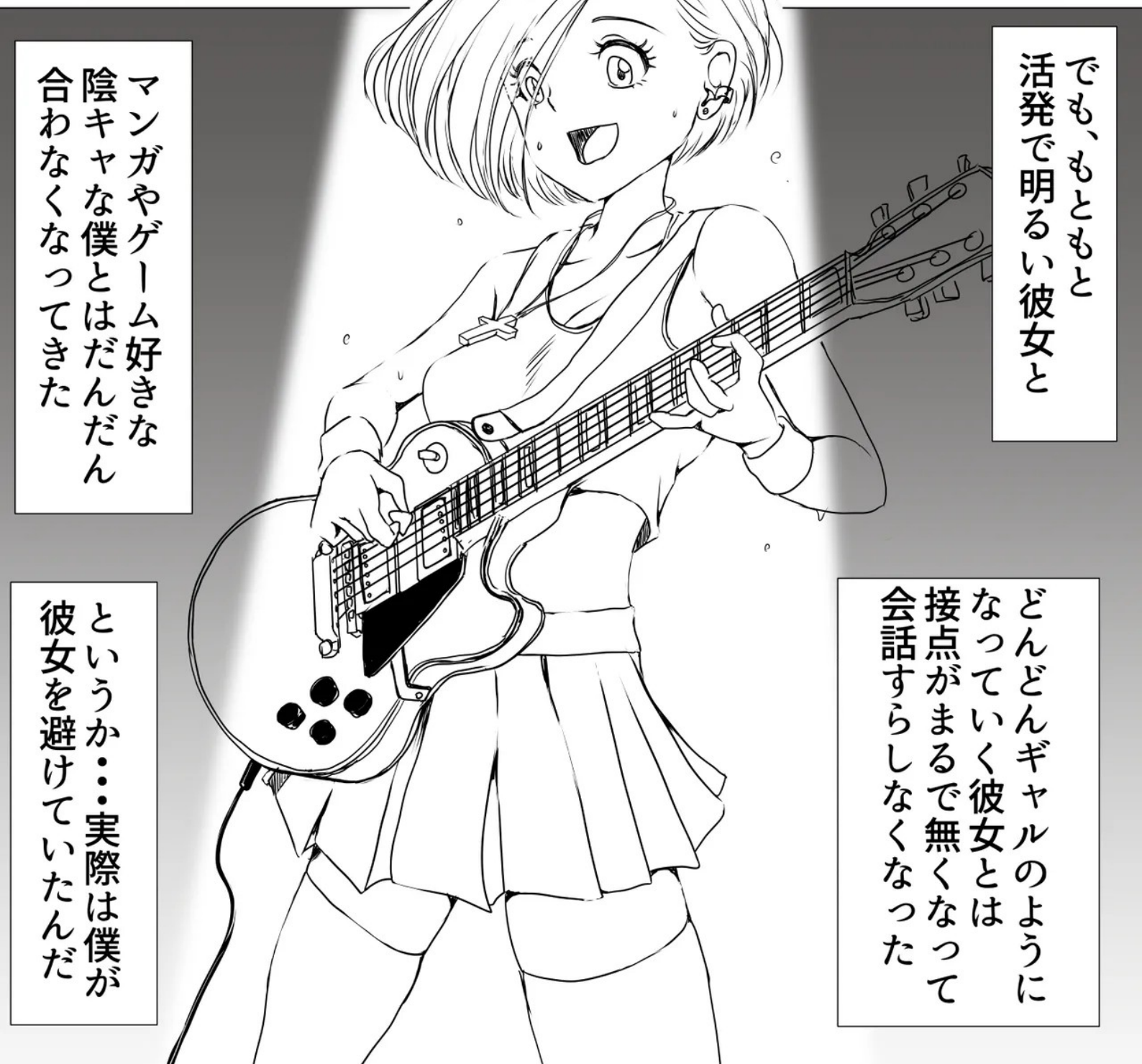

唯はそんな女じゃねーよ！
ガタッ!!


シ・・・シノブ、何怒ってんだよ
ちょ・・・ちょっとした冗談・・・冗談だよ・・・
言って良い事と悪い事ってあんぞ


おもしろくない冗談なんて
メシがマズくなるだけ
じゃんか
田代シノブ
タバコ
行ってこよ
幼稚園からずっと一緒の
幼馴染みだ・・・

シノブとは
家が近所だったし

同じサッカーチームに
入ってたから小学生の
低学年までは遊んでいた



でも、もともと
活発で明るい彼女と

マンガやゲーム好きな
陰キャな僕とはだんだん
合わなくなってきた

どんどんギャルのように
なっていく彼女とは
接点がまるで無くなって
会話すらしなくなった

というか・・・実際は僕が
彼女を避けていたんだ


ここか
生徒指導室
この中に雨宮さんと
生徒指導の松村が・・・


カーテンが閉まってる
少し隙間があるな・・・


れろ
お。


ああ・・・
雨宮さん・・・
君のそんな顔
誰も見たことないだろう・・・
とろけそうな表情で
ちんぽをしゃぶって・・・
そんなにもそいつが
愛おしいのか・・・

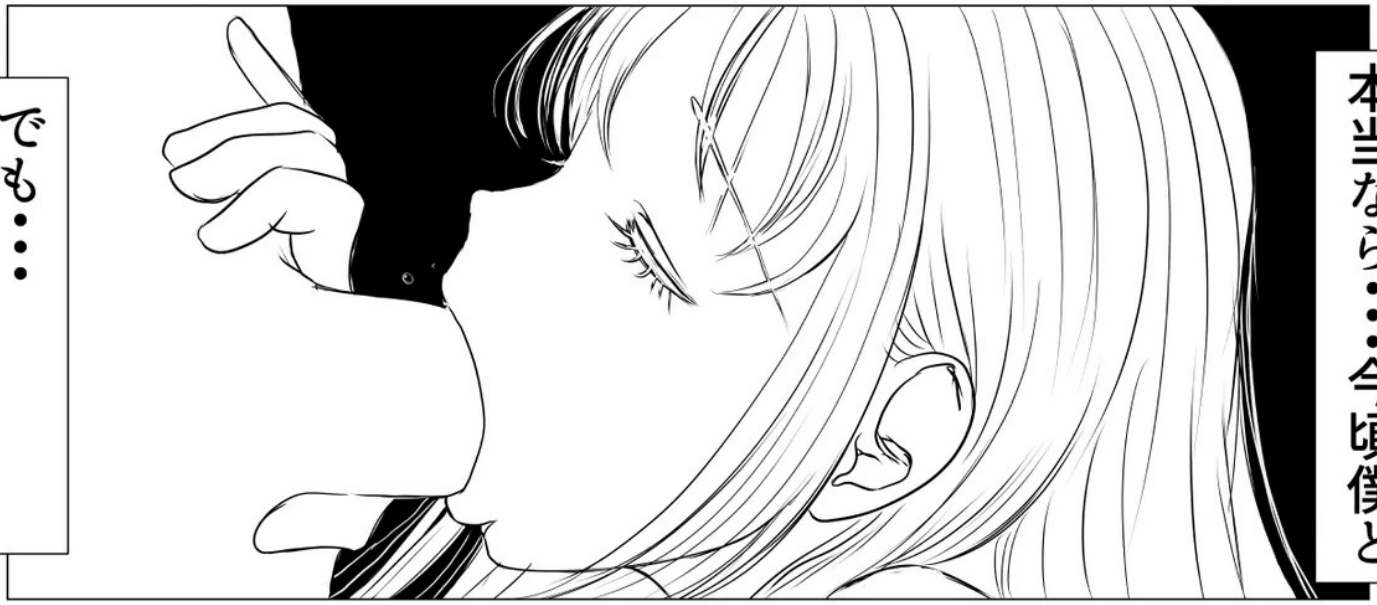
雨宮さん・・・
雨宮・・・

本当にそいつの事
好きになったんだ



本当なら・・・今頃僕と

でも・・・
もう君はそいつと

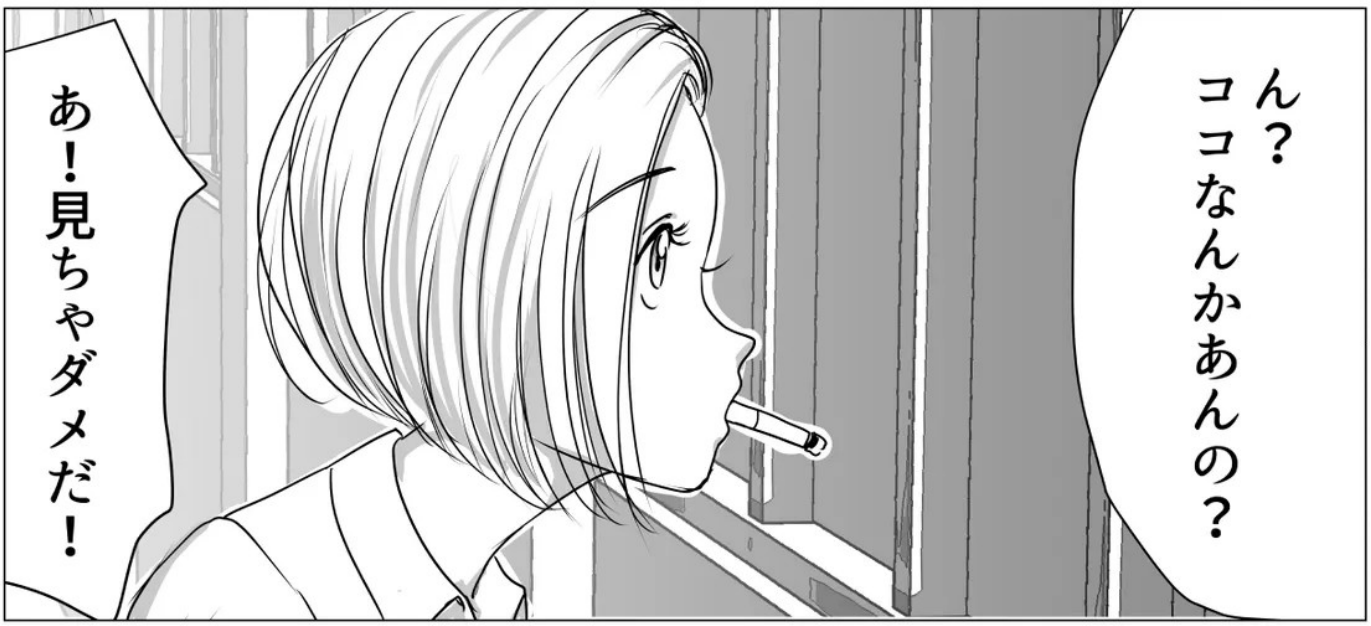


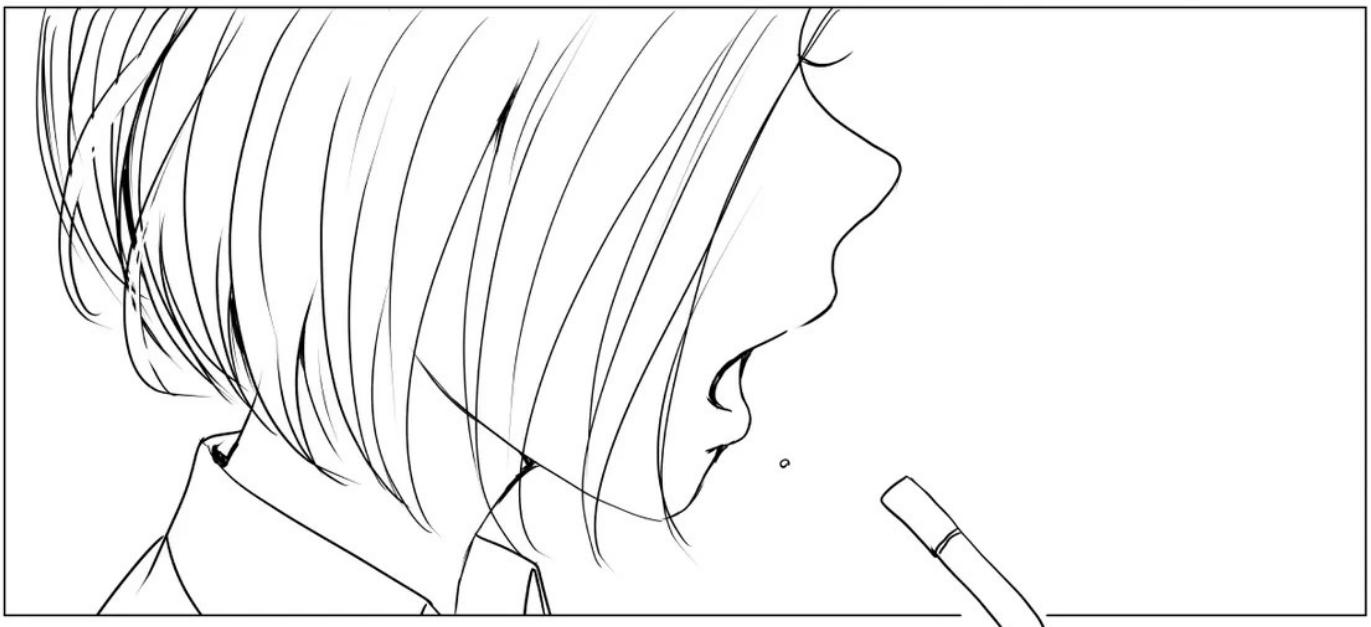
結局僕は
見てることしかできない

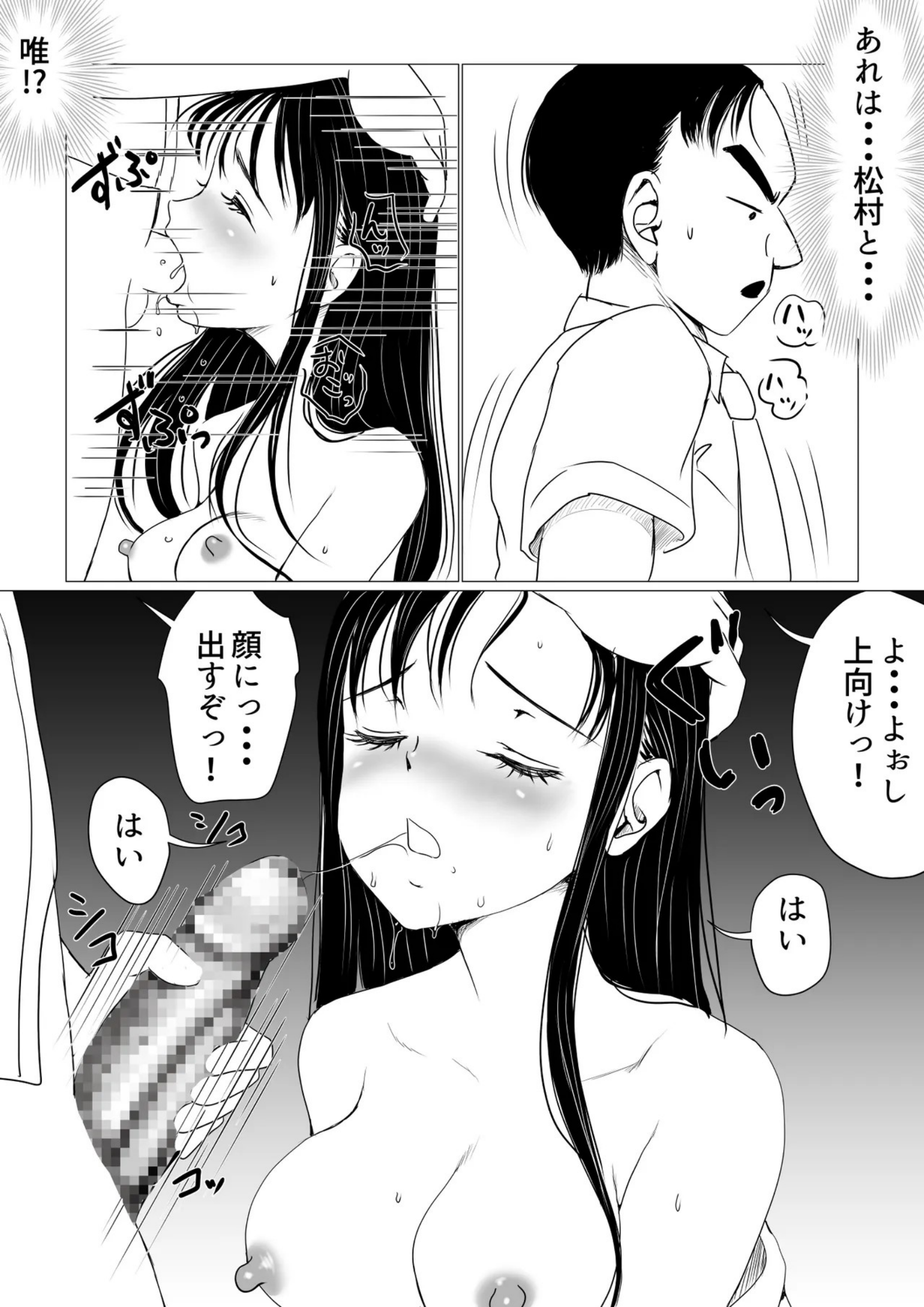
そして・・・僕はまた・・・



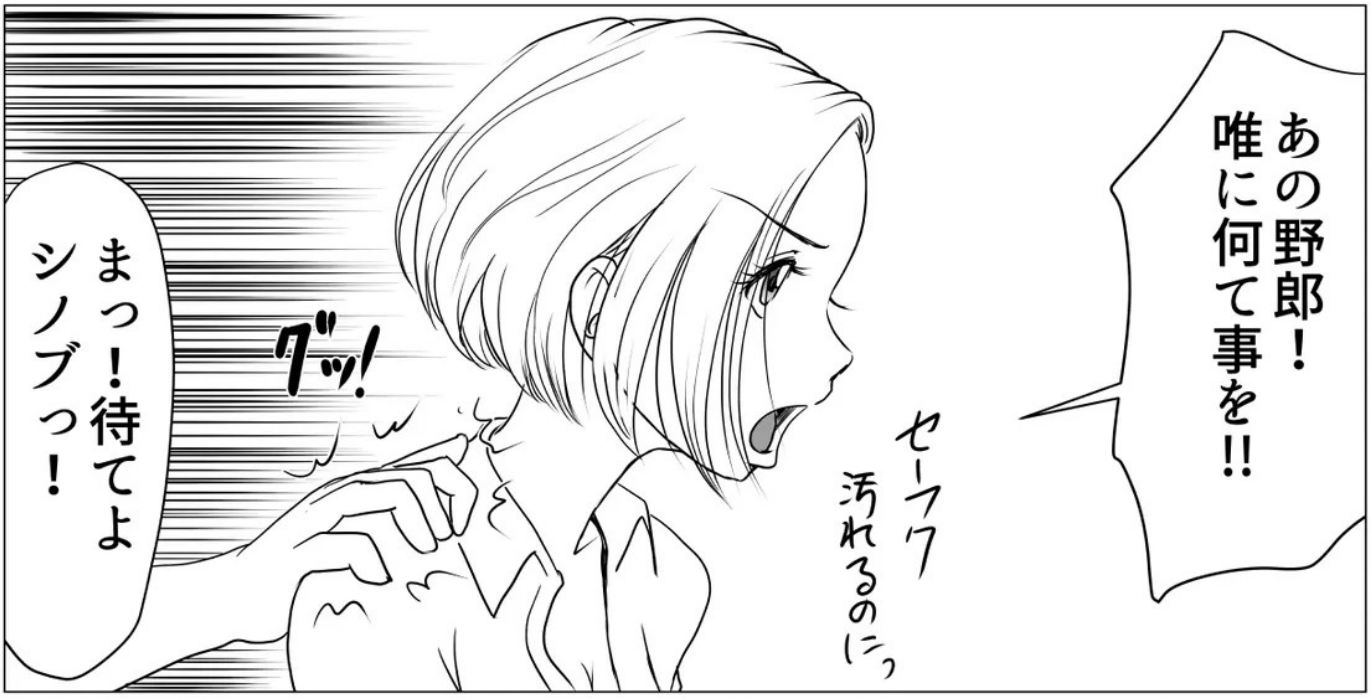

なにしてんの？
びくっ!!!
わ！
田代っ！
なんで
ここに？
ココ滅多に
人来ないから
タバコ
吸うのに
いいんだよ
昔みたいにシガってみべよ

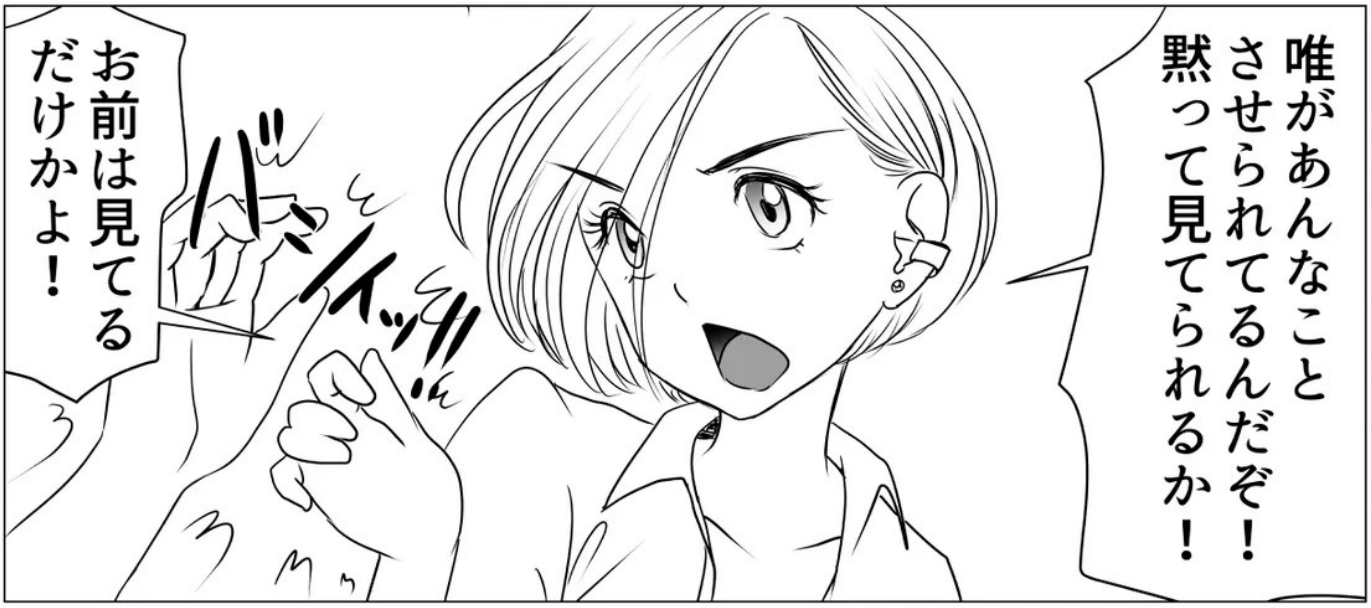

ん？
ココなんかあんの？
あ！見ちゃダメだ！



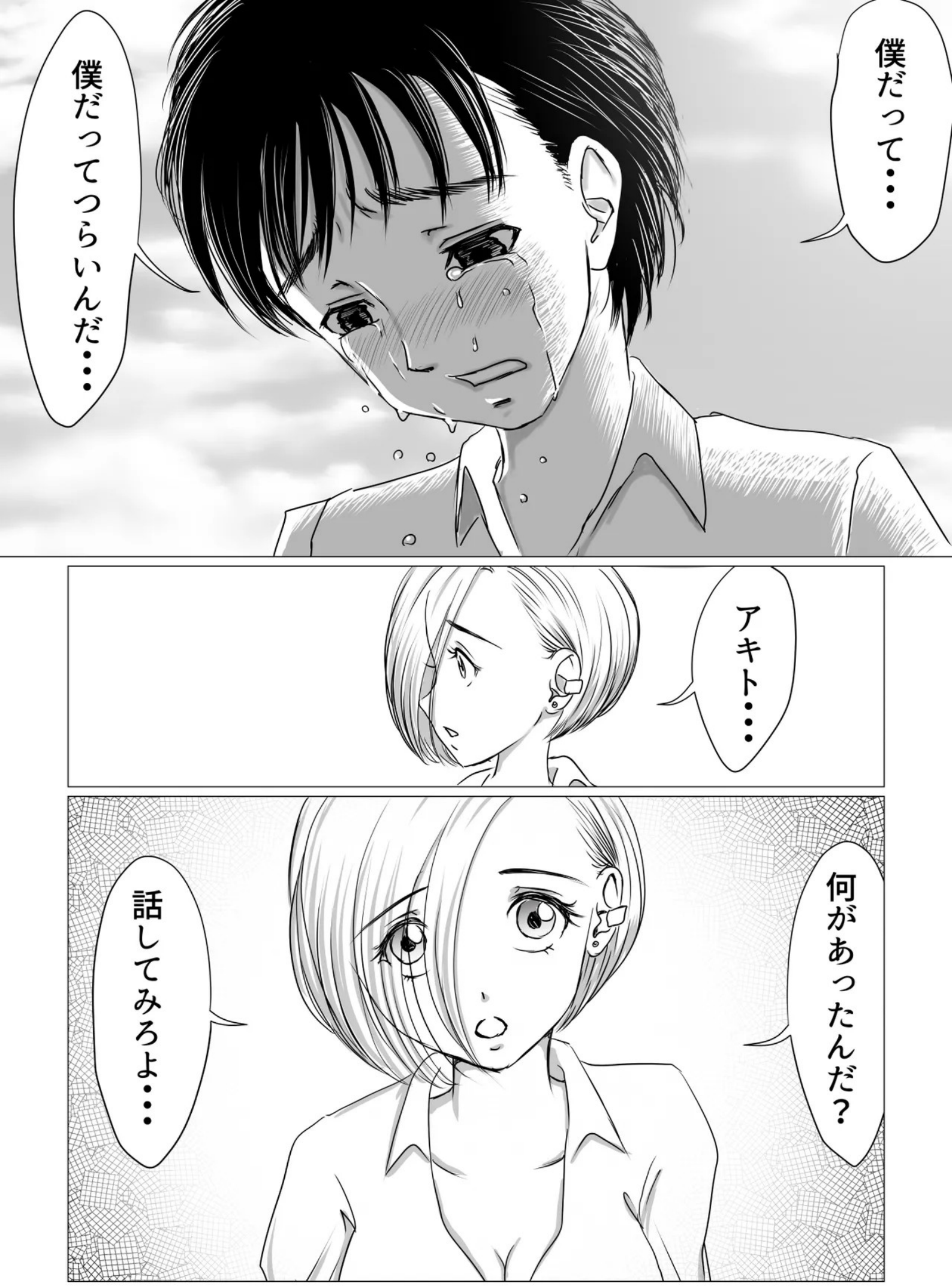

あれは・・・松村と・・・
ハッ
ハッ
唯!?
ずぶ
んぐ
ずぶっ
よ・・・よぉし
上向けっ!
はい
顔にっ・・・
出すぞっ!
はい
シコ
シコ
コッ

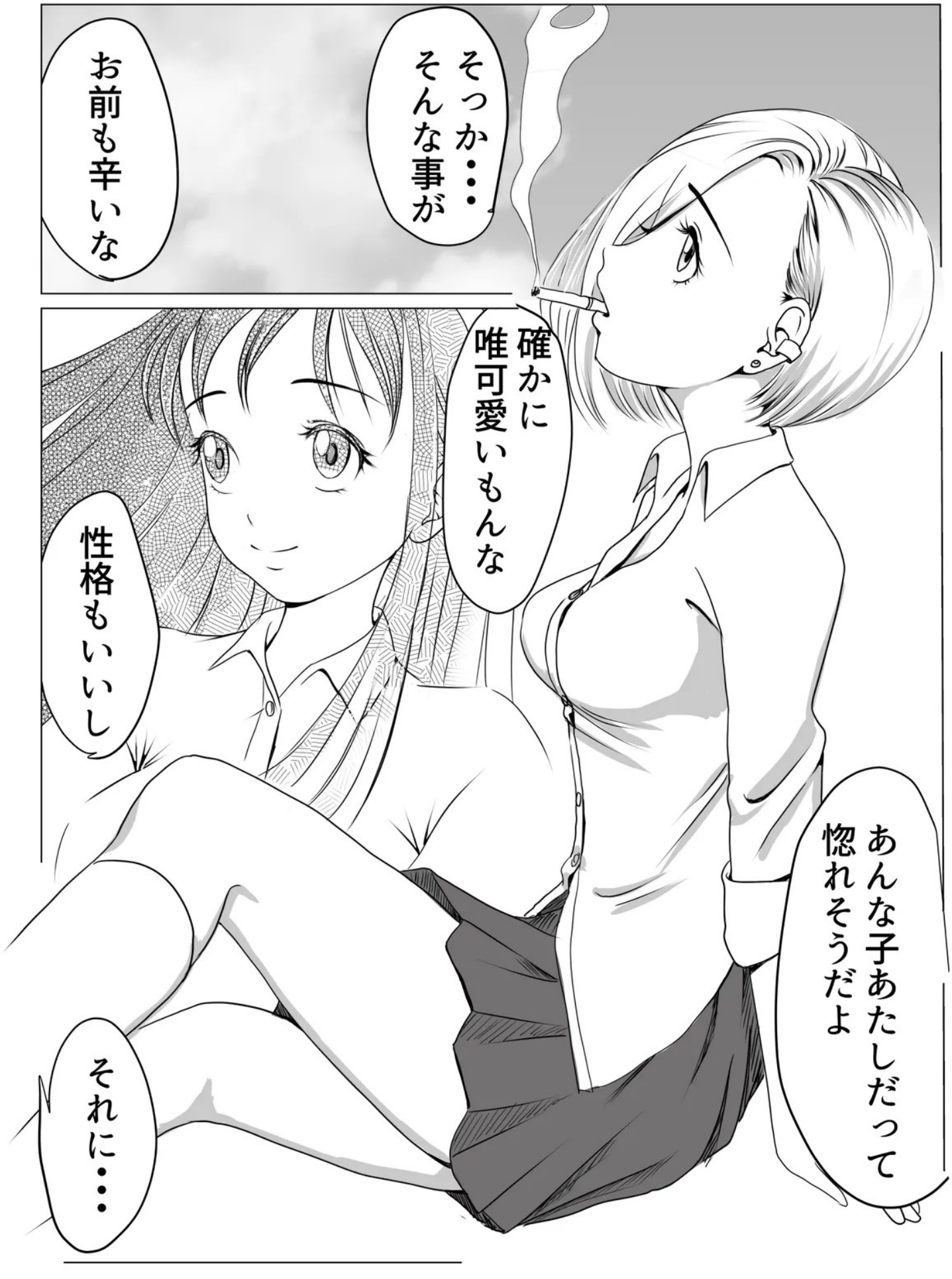

あっ！


あの野郎！
唯に何て事を!!
まっ！待てよ
シノブっ！
グッ！
セーフ？
汚れるのに？


唯があんなこと
させられてるんだぞ！
黙って見てられるか！
お前は見てる
だけかよ！
バシィッ!!


それとも何か？
お前あれ見て
シコってたのか？
最低だな!!
お前！


僕だって・・・
僕だってつらいんだ・・・
アキト・・・
何があったんだ？
話してみろよ・・・


そっか・・・
そんな事が
お前も辛いな
確かに
唯可愛いもんな
性格もいいし
それに・・・
あんな子あたしだって
惚れそうだよ


や・・・やっぱり、お・・・男ってさ
唯みたいな
胸のおっきな女の子が
好き？・・・だよね・・・
ぷるんっ
ドキッ!!


雨宮さんほどじゃないけど、シノブも結構ある・・・よなぁ・・・
ドキ
ドキ
ぽよよん♥
でも・・・僕がシノブを避けるようになったのもこいつが「女」である事を意識するようになったからなんだ


あの日もいつものようにサッカー練習の後に二人で遊んでた・・・
シノブは親の仕事が終わるのが遅いからいつも練習終わってから僕も付き合って遊んでた
悪イ！オレ取ってくる


おそいな・・・
シノブのやつ
ガサッ・・・
ちょっと探すの
手伝うか・・・
あ！あんなとこに居た


ばっ・・・ばかっ！
見るなっ！
もじっ
もじ・・・
この時初めてシノブが
「女」である事を認識した
ジョ～～ッ


なにしてんだ？
シノブ
わ！
ぴくっ！

わ！ごめん
おしっこしてたなんて

もうっ！
すぐ終わるから
あっち行ってろよ！

ジョジョッ

ジョ〜…

髪も短かったし
一人称も「オレ」だったし…

こいつのこと女として
見てなかったけど…

でも…あの時こいつは…

あ…あのさ
アキト…

見たいか？

お前も…見せろよ

そしたら…
オレのも、見て…いいよ


それは僕たちが
互いの性の違いを
知った瞬間だった

あれから
何か後ろめたくて
僕はシノブのこと
避けるようになった

キーン
コーン
カーン
コーン

あー・・・
もう昼休みも
終わりかー

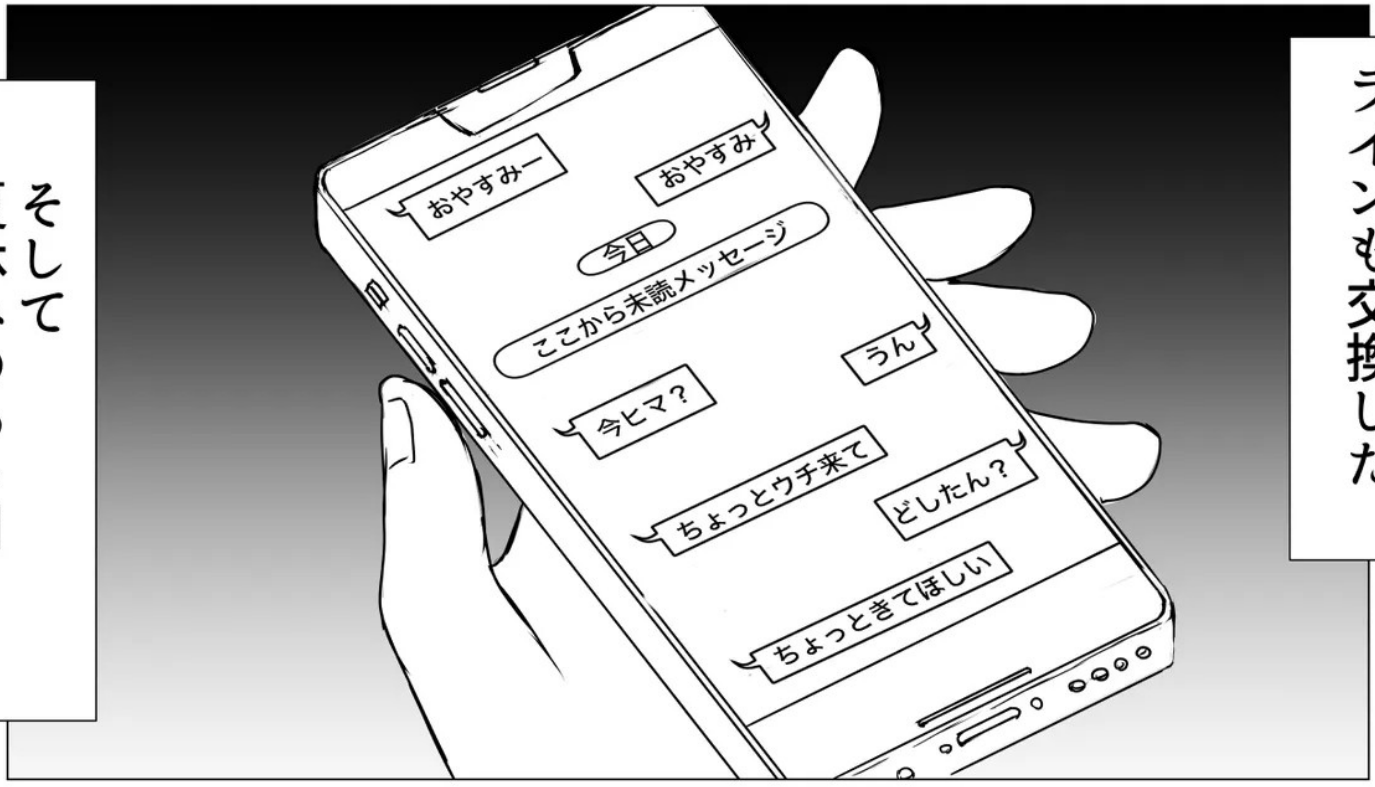
こいつも
あの時の事とか
憶えてないだろうな・・・



それからというもの
昼休みは校舎裏で彼女のタバコに
付き合いながら話すようになった

彼女のバンドの話
音楽や漫画の話
意外にも好きな映画が
一緒だったり

高校に入って
友達ができなかった
僕にとって彼女は
一番の友達になった

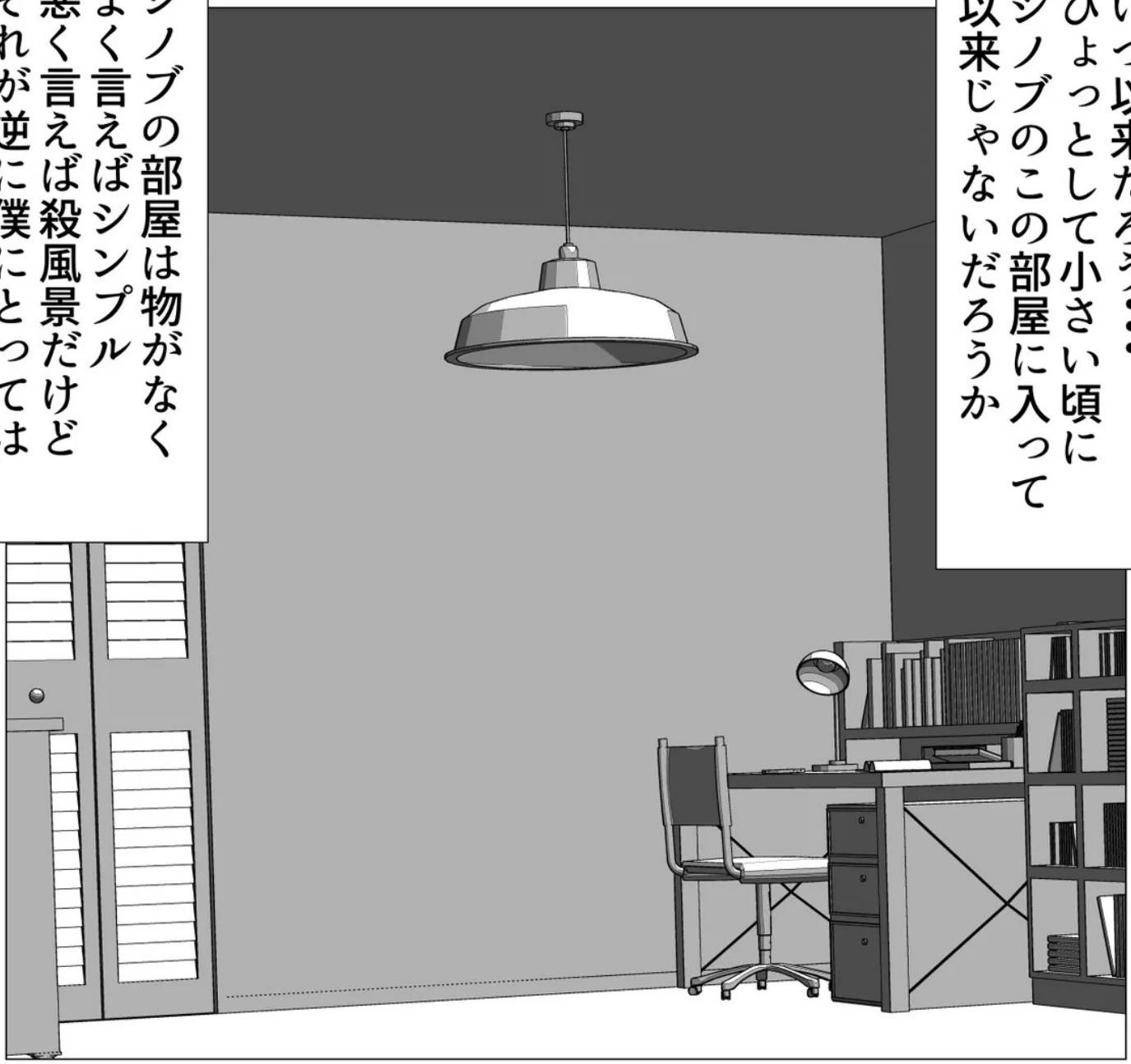


ラインも交換した

そして
夏休みのある日・・・

女子の部屋に入るなんて
いつ以来だろう・・・
ひょっとして小さい頃に
シノブのこの部屋に入って
以来じゃないだろうか

シノブの部屋は物がなく
よく言えばシンプル
悪く言えば殺風景だけど
それが逆に僕にとっては
緊張しないでいいんだけど

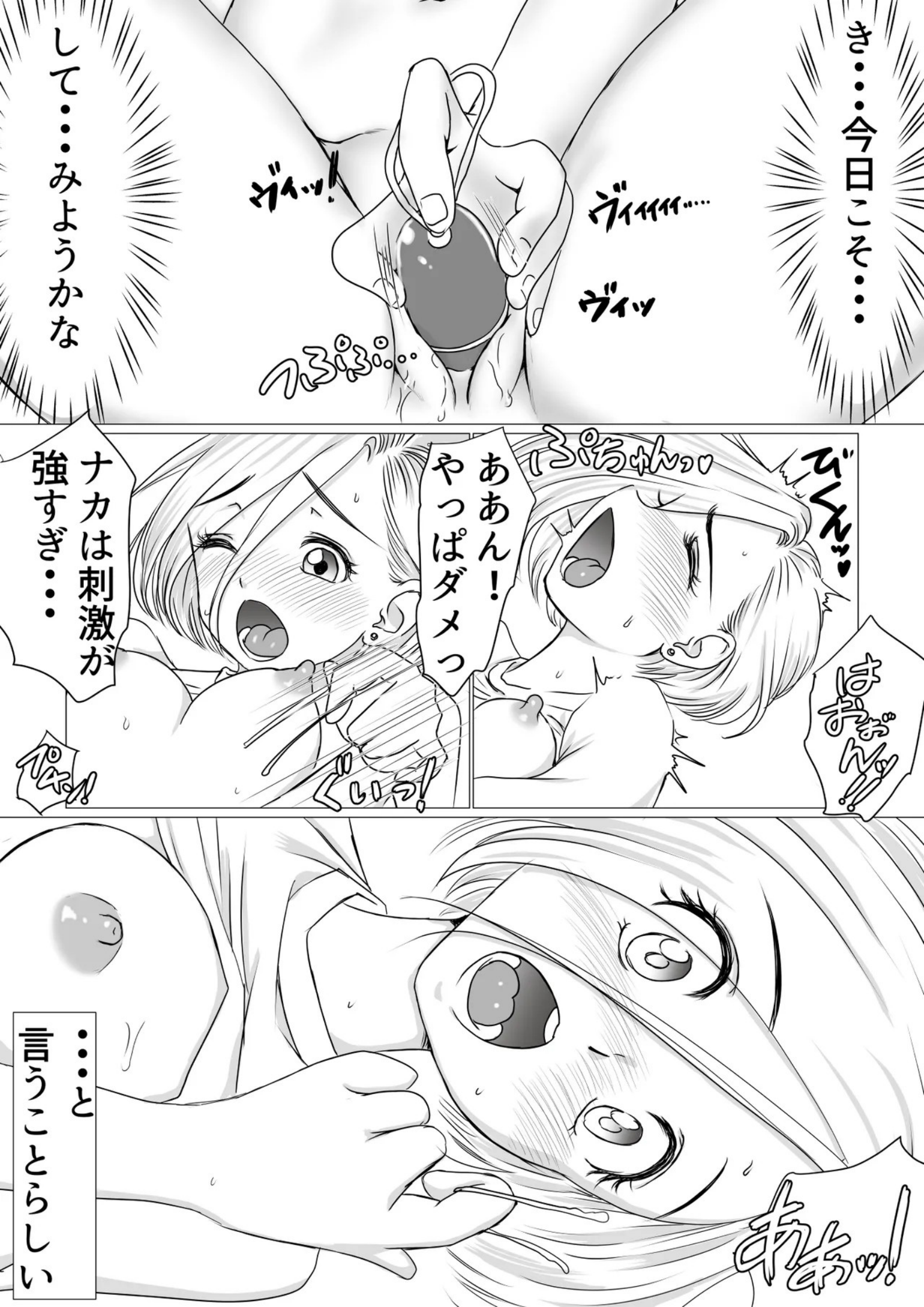


ただ・・・

落ち着くことは
できない・・・

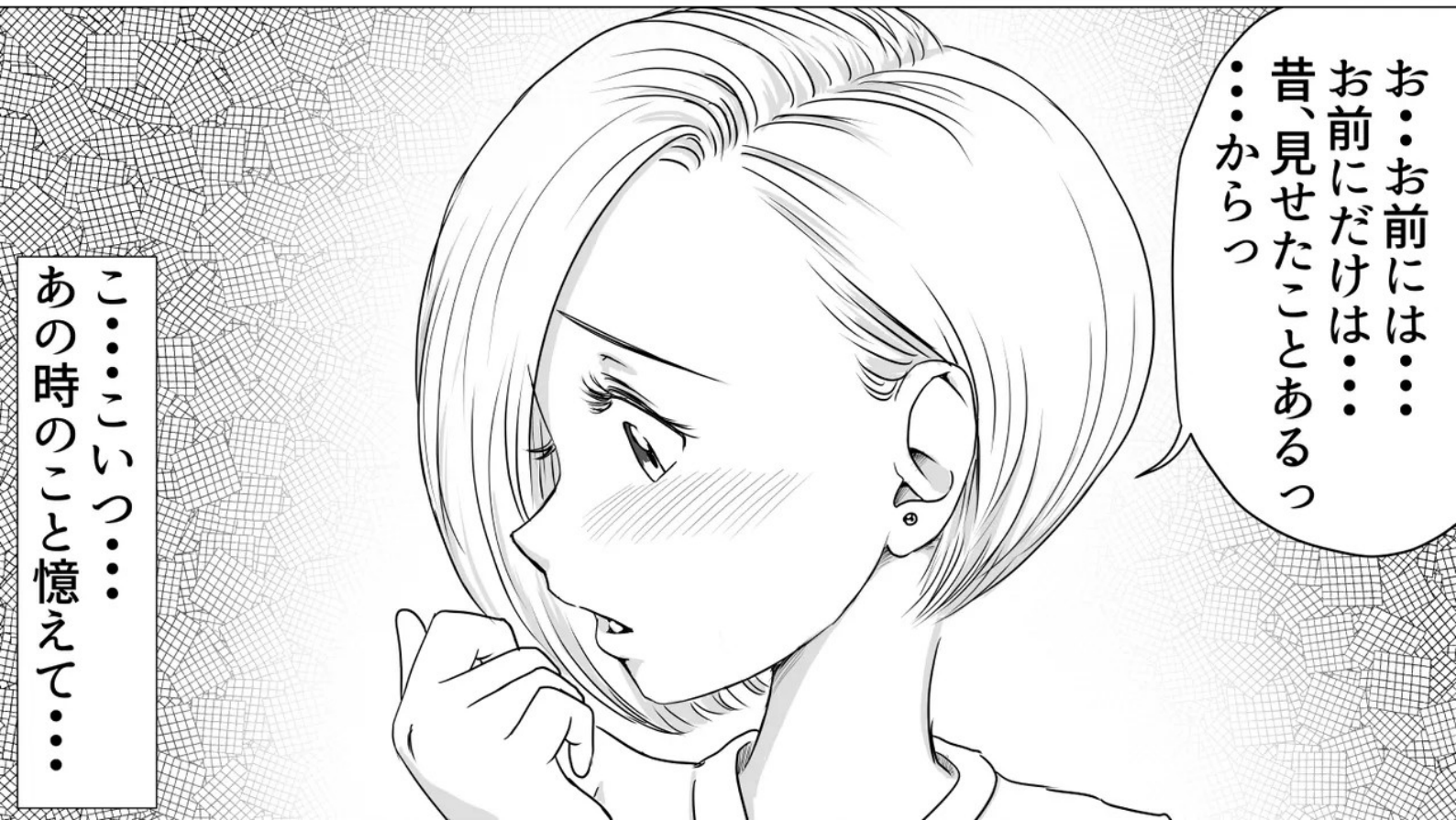

その原因はコイツだ・・・
彼女は下着もつけずにTシャツ1枚で座っているそれには理由があって・・・


あん・・・
はっ！
ああんっ！
ヴィィィ…
ヴィッ！
ヴンッ！
ヴィィィィ…
あん
クリっ
クリっ♥
ん…
ソっ!!
ムニュ
ムニュ
クリっ
はぁ
はッ
あんっ・・・


き・・・今日こそ・・・
して・・・みようかな
ヴィッ!
ヴィィィィ……
ヴィッ
つぷぷ…
びくんっ♥
ぷちゅんっ♥
はおぉんッ!!
ああん！
やっぱダメっ
ぐいっ!
ナカは刺激が
強すぎ・・・
ぷちゅ!
・・・と
言うことらしい
おおッ!


やっぱ、親に相談して病院とか行った方が・・・
親には言えないよ・・・ウチ・・父親しかいないし・・・
そっか・・こいつんち確か離婚してたっけ・・

女友達にも恥ずかしくて言えない・・・
でも・・・だからと言って僕に相談されても・・・


お・・お前には・・・お前にだけは・・・昔、見せたことあるっ・・・からっ
こ・・こいつ・・・あの時のこと憶えて・・・


だから・・・お願い・・・
これ・・・取って
こんな事・・・
お前にしか頼めない
かあああ・・・
うわぁあああああ！
な・・・生まんこだっ！
くぱぁッ・・・

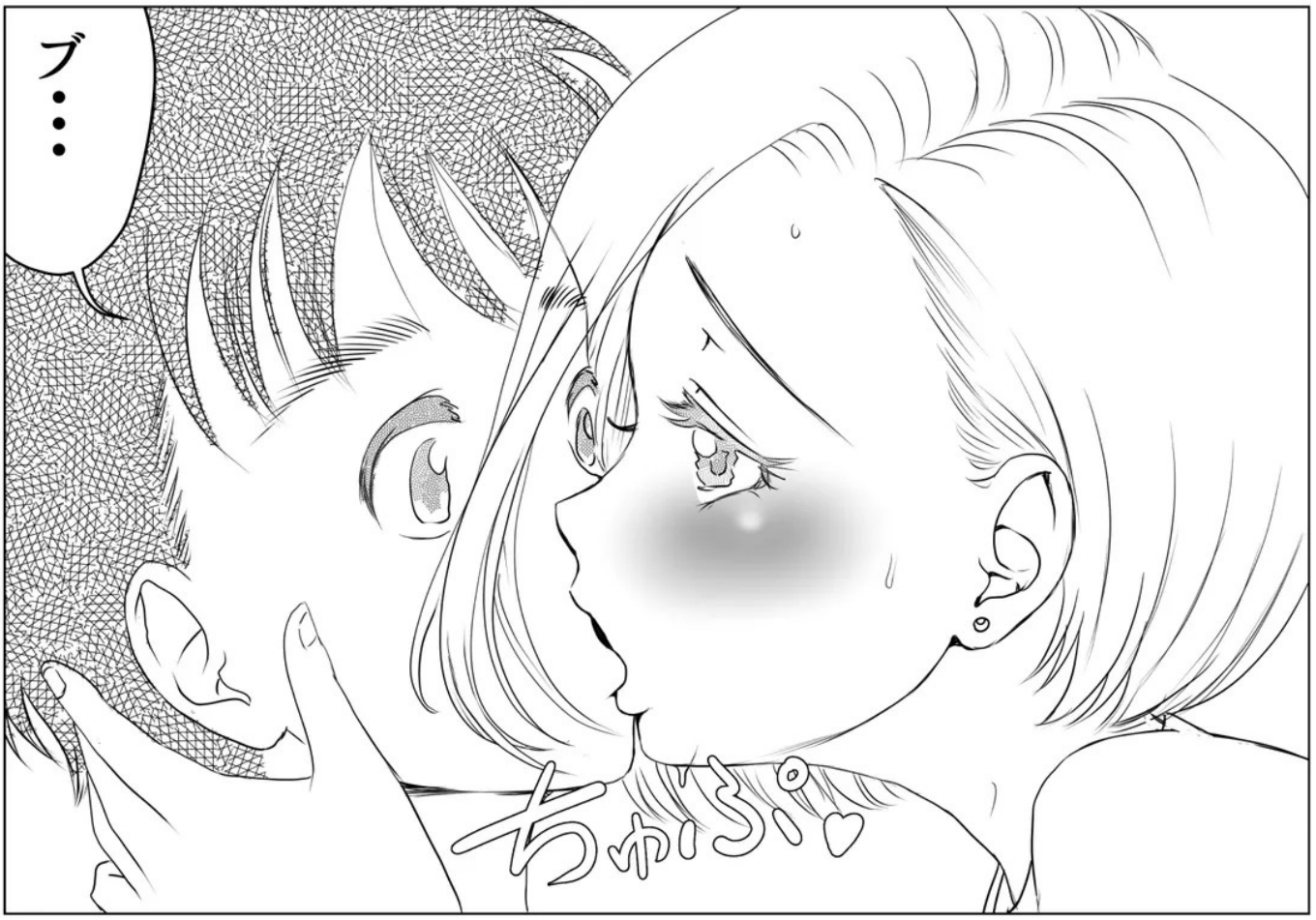

うわ・・めっちゃチンコ勃ってきた・・・
さ・・・さわるよ
うん・・・
ドキドキ
ヌルヌルして滑るな・・・
取れない・・・どうしよう・・・
くりゅっ
くりゅっ
えーと・・・
カチッ
あぐっ!!
どくん!!

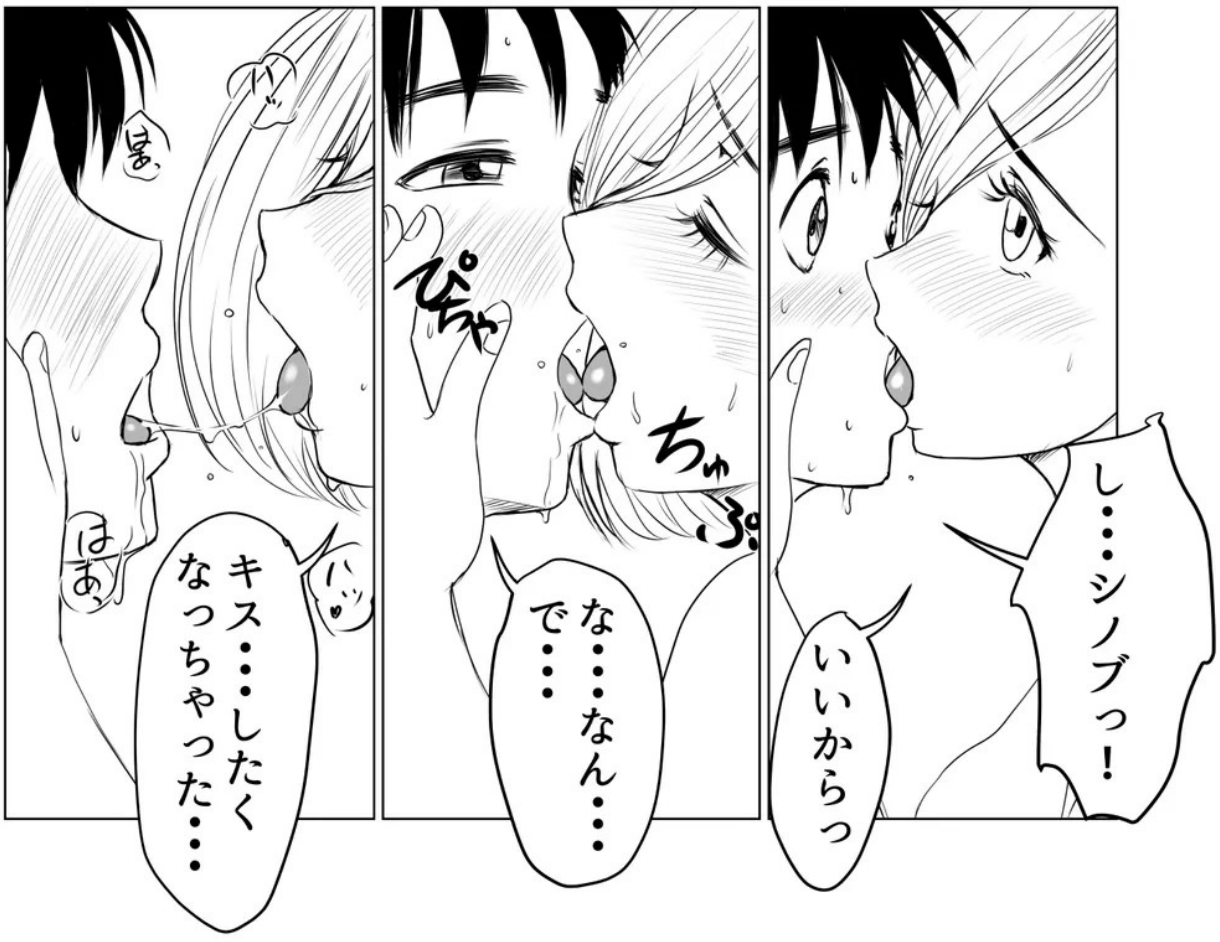

ばっ！ばかあッ！
スイッチっ！いれる・・・なぁっ！
え？
※パルス式→


ス・・スイッチっ
きっ・・・て！
あッ!!
え！
ど、どうしたらっ！
ビク
オロ・・・
わかんないよ！
どうしよう
オロ・・・
あぁんっ
ビクッ!!
じゃ・・じゃあ
早く取り出してっ！
このままじゃっ！あたしっ！
グチュンッ!!
わ、わかった！
奥から押し出せばっ！
え・・・
いま
そんなこと・・・
したら


イっちゃう!!
プシャッ!!


だ、大丈夫か!?
シノブっ!
いま助けるからなっ!
出てこいっ!
と・・・取れた
やった!
とれたぞ!
シノ・・・


ブ…
ちゅぷ♡


し…シノブっ！
いいからっ
ぴちゃ
ちゅぷ
な…なん…で…
ハッ
はぁ
キス…したくなっちゃった…


ココ…
おっきくなってるね
さすさす
さーす♥
どれどれ？
アキトのちんちんは
成長したかな？
先ぬれてる♥
イーッ
あっあ！だ、ダメだよっ！
あたしのも
触ったじゃん…
ユビまでしれたワセに
しこっ♥
しこっ♥
あっ…あ…
シノブ…


シノブ…
僕
おっぱい
見たい
ん…うん…
ぷるん♥
さ…
さわってもいい？
ぽよよん…
い…いいよ
けど…
あ…あたし
唯ほど大きく…
ないよ？
雨宮さんは
関係ないだろ…

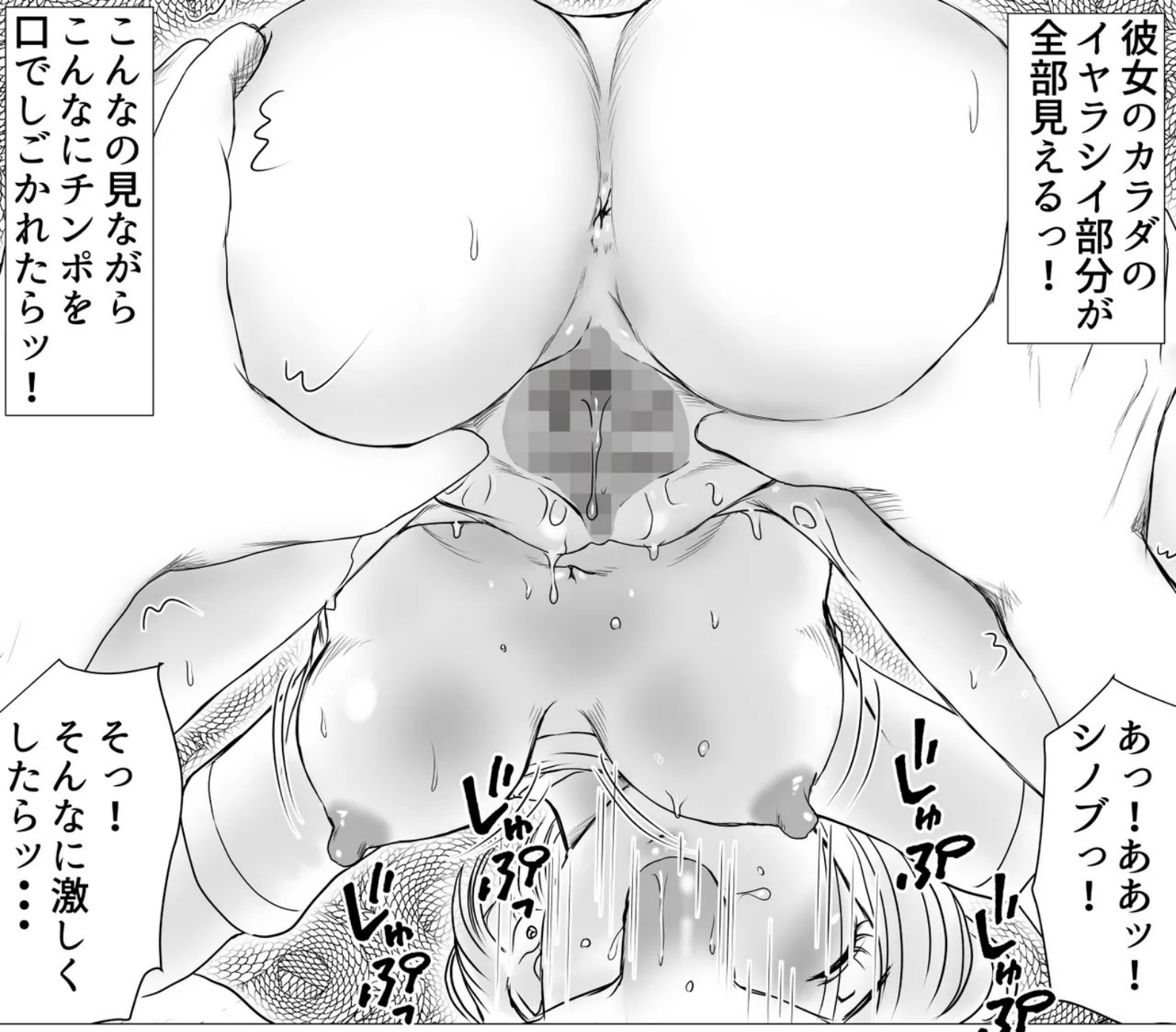

あん…
それっ…いい…
さきっちょ…
舐めてもらうのって
キモチいいんだね
ぱっ
はぁッ
ぺろっ
しゅっ
しゅ…
ピクヤ…

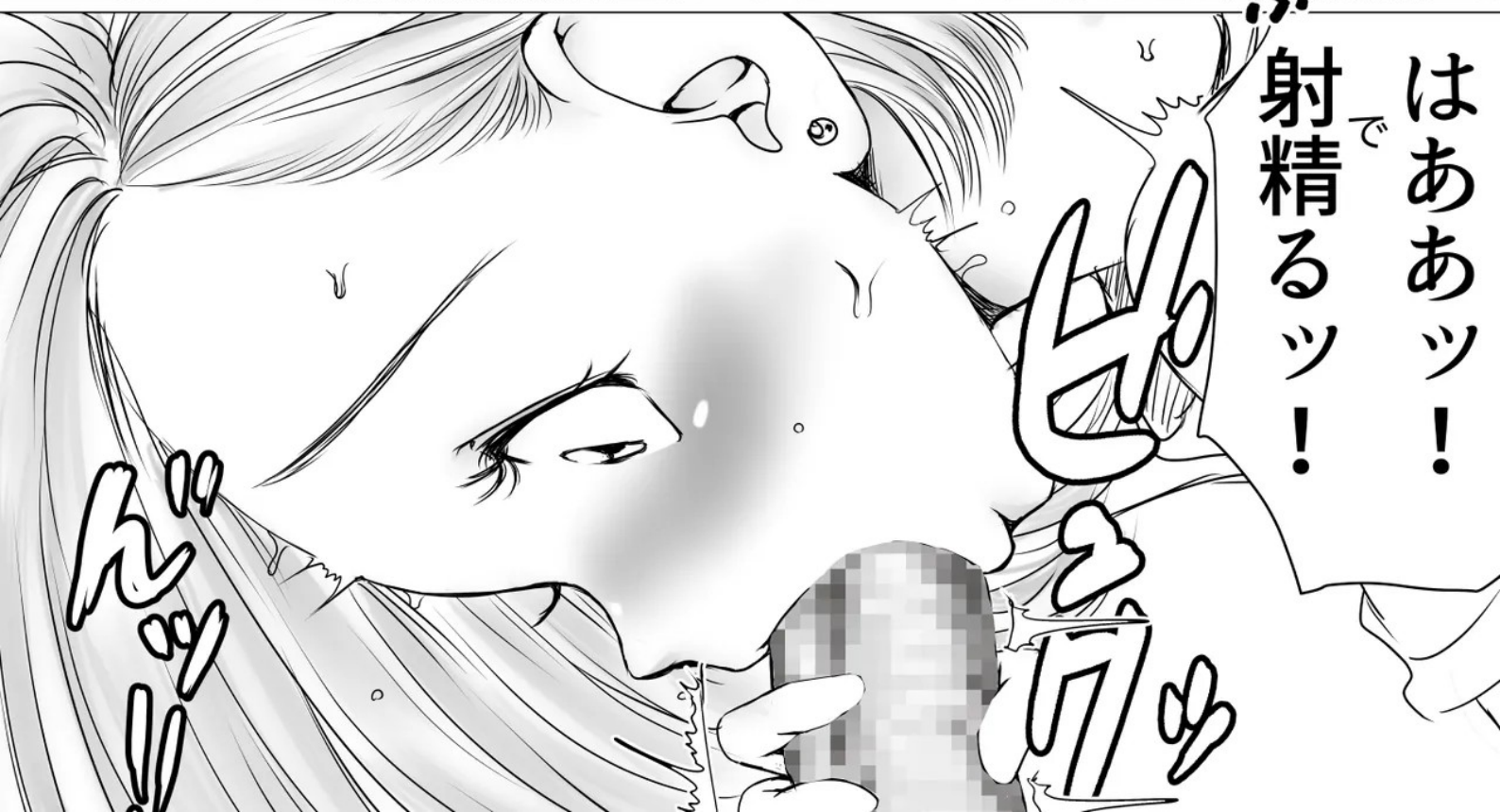

あたしもしてあげる
ビクッ
ぺろっ
はああっ！


あはっ♡
カワイイっ！
ぺろ
ぺろっ
ぺろ
ぺろ
はっ！はああっ！
そんなとこ舐めたら
汚いよっ！
イヤラシイ臭い・・・
あっ！あ・・・
それっ・・・く・・・
くすぐったいっ！
しこ♥
しこっ
れ〜っ
コーフン
しちゃう・・・

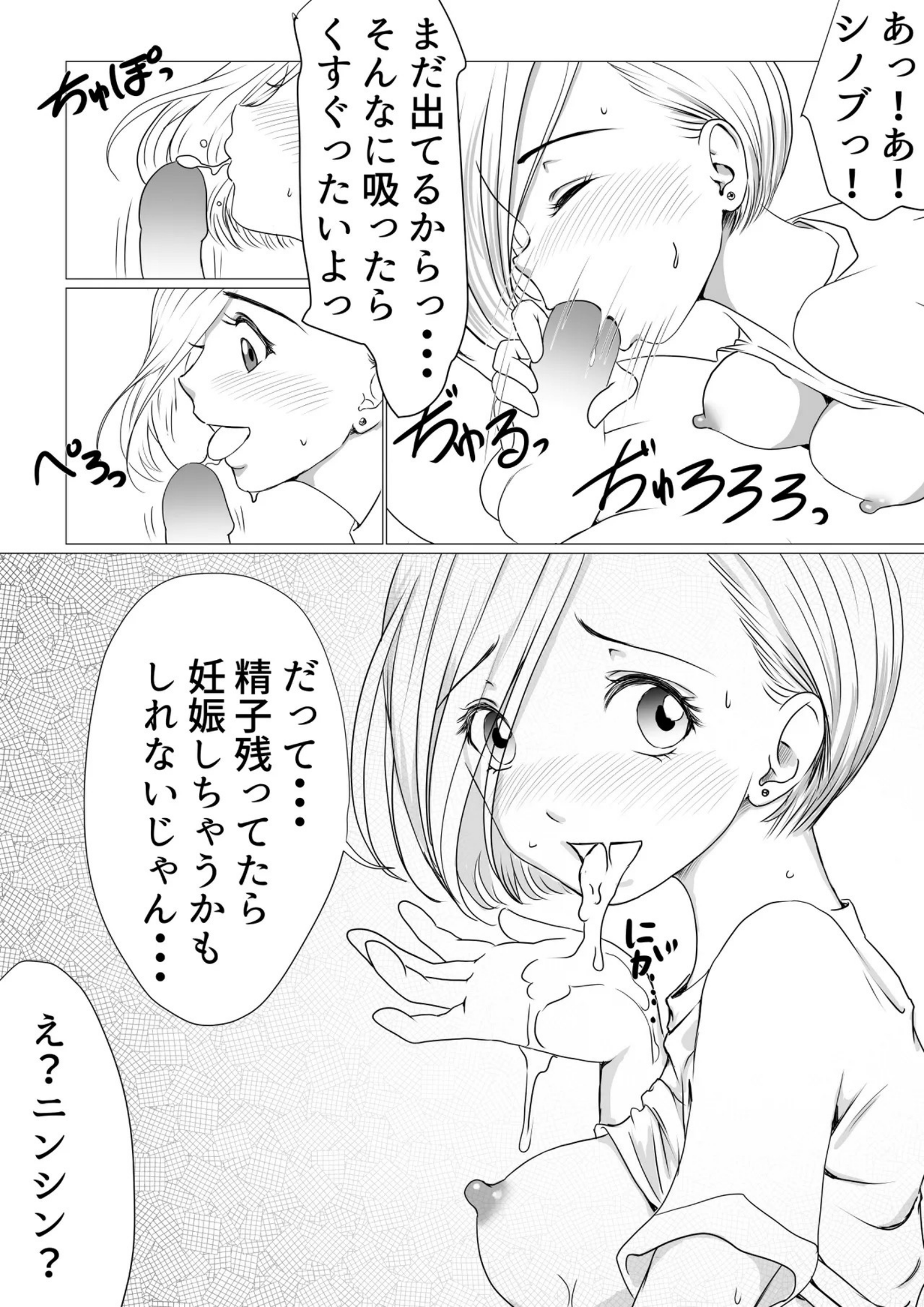

こ・・・これこの前
雨宮さんが松村に
やってたやつだ
じゅぽっ
んッ♥
じゅぽ
ん！
はああっ！
き・・・気持ちいいっ
うず・・・
ね・・・ねえ・・・
あたしのも・・・
はっ
はっ
うずっ・・・
わあぁっ！


はああっ！
目の前にまんこっ！
そして・・・
シノブは僕のを
美味しそうに食べて・・
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
ぴちゃ・・・
はぁ
はぁ
ぺろっ


彼女のカラダのイヤラシイ部分が全部見えるっ！
こんなの見ながらこんなにチンポを口でしごかれたらッ！
あっ！ああッ！シノブっ！
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
そっ！そんなに激しくしたらッ・・・

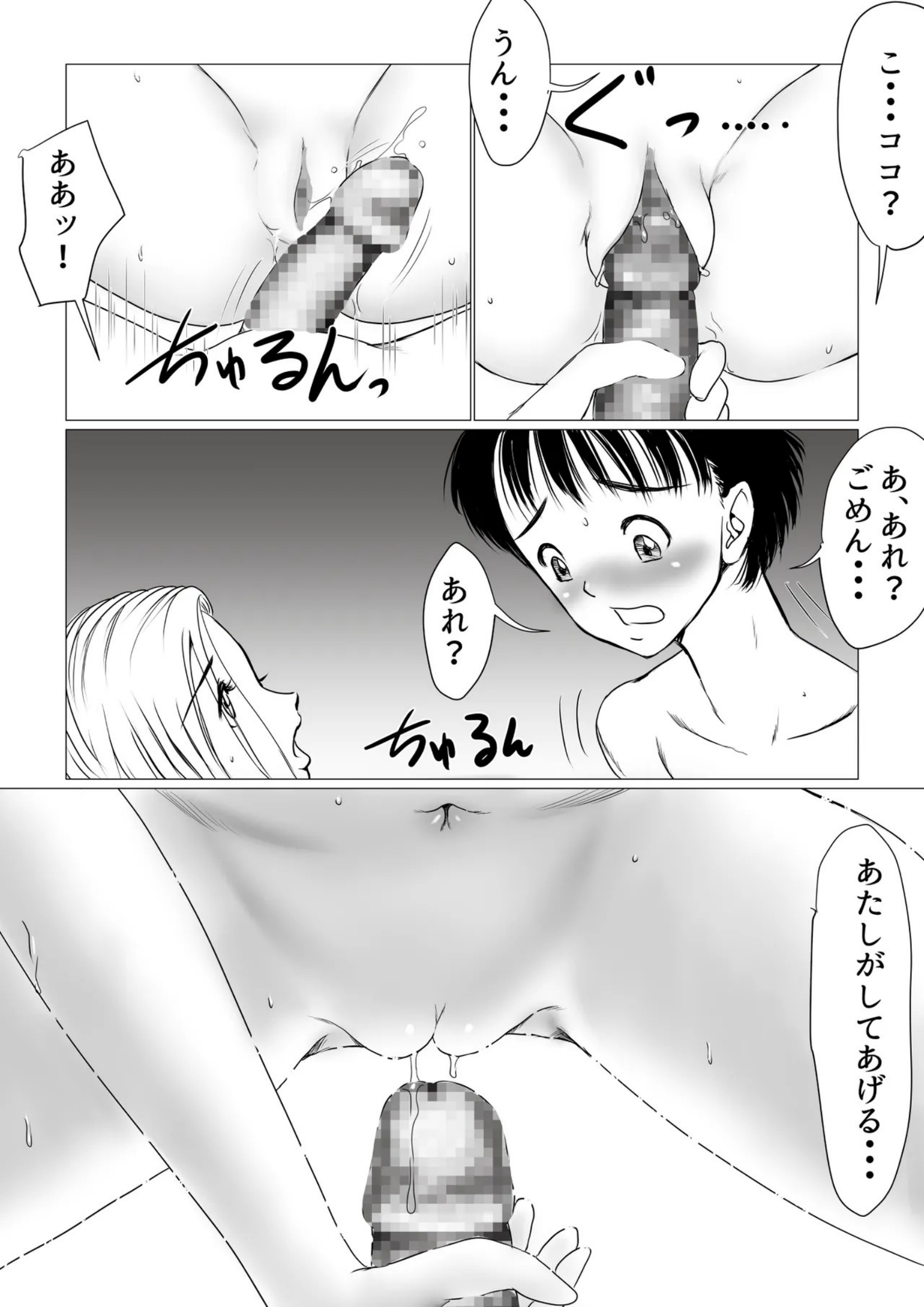

はあああッ！
で射精るッ！
んッ！

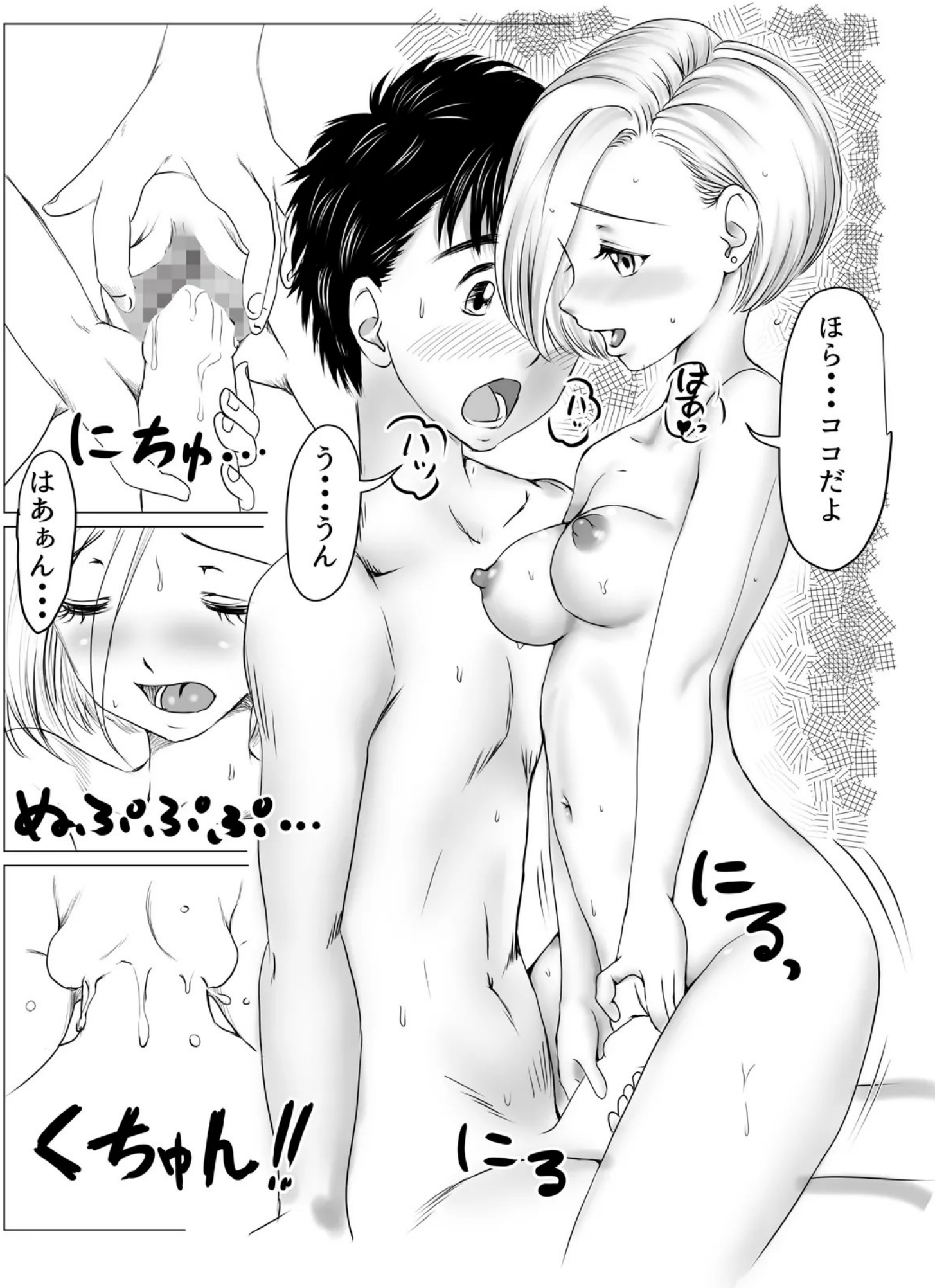

あッ！あッ！
とッ・・・止まらないッ！
すっ！
すげー出てるうッ!!
おッ
はあぁッ!!
びゅッ!!
びゅッ!!
びゅッ!!
びゅー
びゅー
びゅー
おッ
んッ!!
べーッ!!
こ・・・
こんな射精ッ！
は・・・
初めてっ！


あっ！あ！
シノブっ！
ぢゅるっ
ぢゅろろろっ
まだ出てるからっ・・・
そんなに吸ったら
くすぐったいよっ
ちゅぽっ
ぺろっ
にが・・・
だって・・・
精子残ってたら
妊娠しちゃうかも
しれないじゃん・・・
え？ニンシン？


ニ・・ニンシン・・・
するような事って・・・
そうだよ
あたしのなか・・・
入って・・・きて
で・・でもっ・・・
それって・・・
ん・・・しよ


セックスしよ♡
はぁ♥
はっ♥


こ・・・ココ？
ぐっ……
うん・・・
ああッ！
ちゅるんっ
あ、あれ？
ごめん・・・
あれ？
ちゅるん
あたしがしてあげる・・・

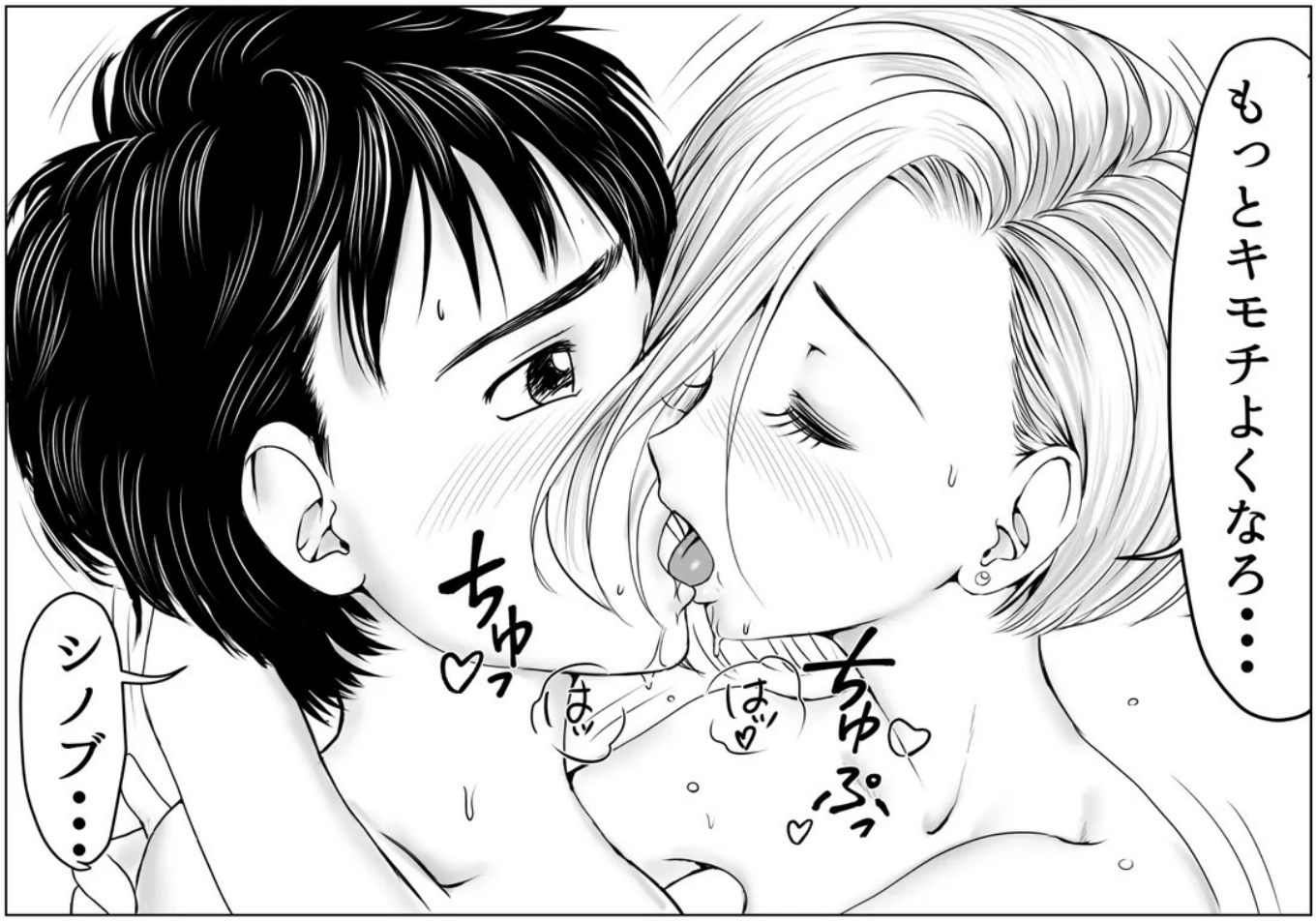

ほら・・ココだよ
ほあっ
ハッ
う・・うん
にちゅ・・
はあぁん・・・
ぬるぷるぷる・・・
にろ
にろ
くちゅん!!


あん・・・
は・・・入ったぁ・・・
はぁぁ・・・
はぁ♡
みて・・・
あたしのナカ・・・に・・・
アキトが・・・いるよ♡
みち・・・
みちっ♡


動いて…
あげるね
あ♡
はあッ♡
あん♡
にち
にちっ…
あん！
ずぢゅんっ！
ああッ！
ずぢゅんっ！
はああっ…


はあああっ！まるで全身を彼女に愛撫されてるみたいだ
それでいて強く抱きしめられてるような・・・
あったかくて柔らかくて・・・
くりっ
くりっ
くりっ
ぎゅっ
ぎゅっ
にゃく…

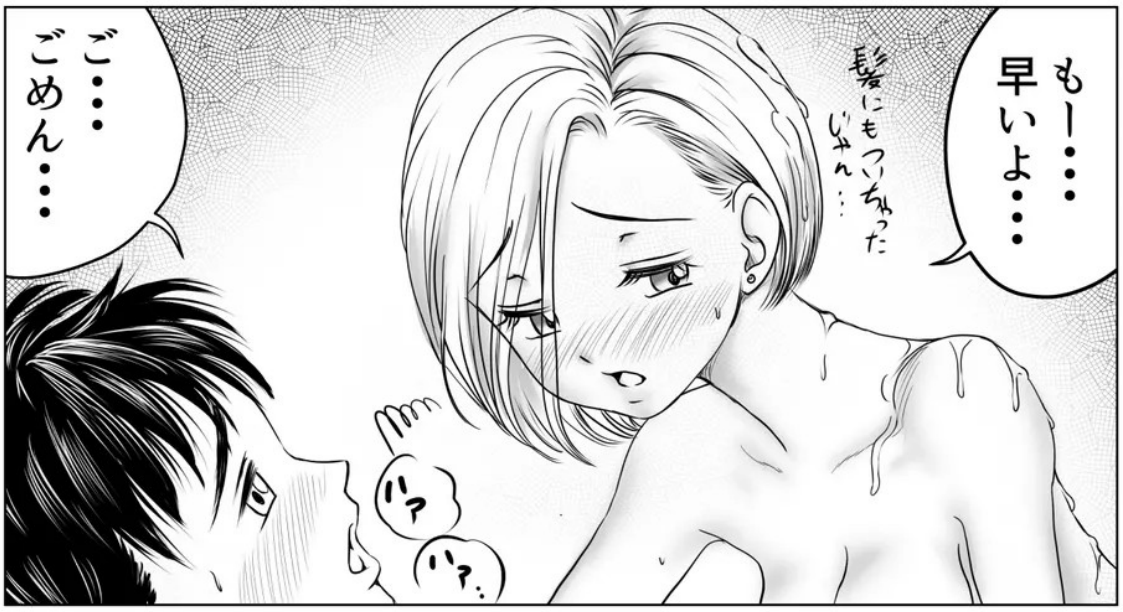

ね・・・
キモチいい？
ぺちんっ♡
あッあッ！こっ・・・
こんなの気持ちいいに
決まってるじゃないか！
うれしい・・・
ぱっ♡
ズチュッ
パチュッ♡
ハァッ
ハァッ
はっ
はぁ

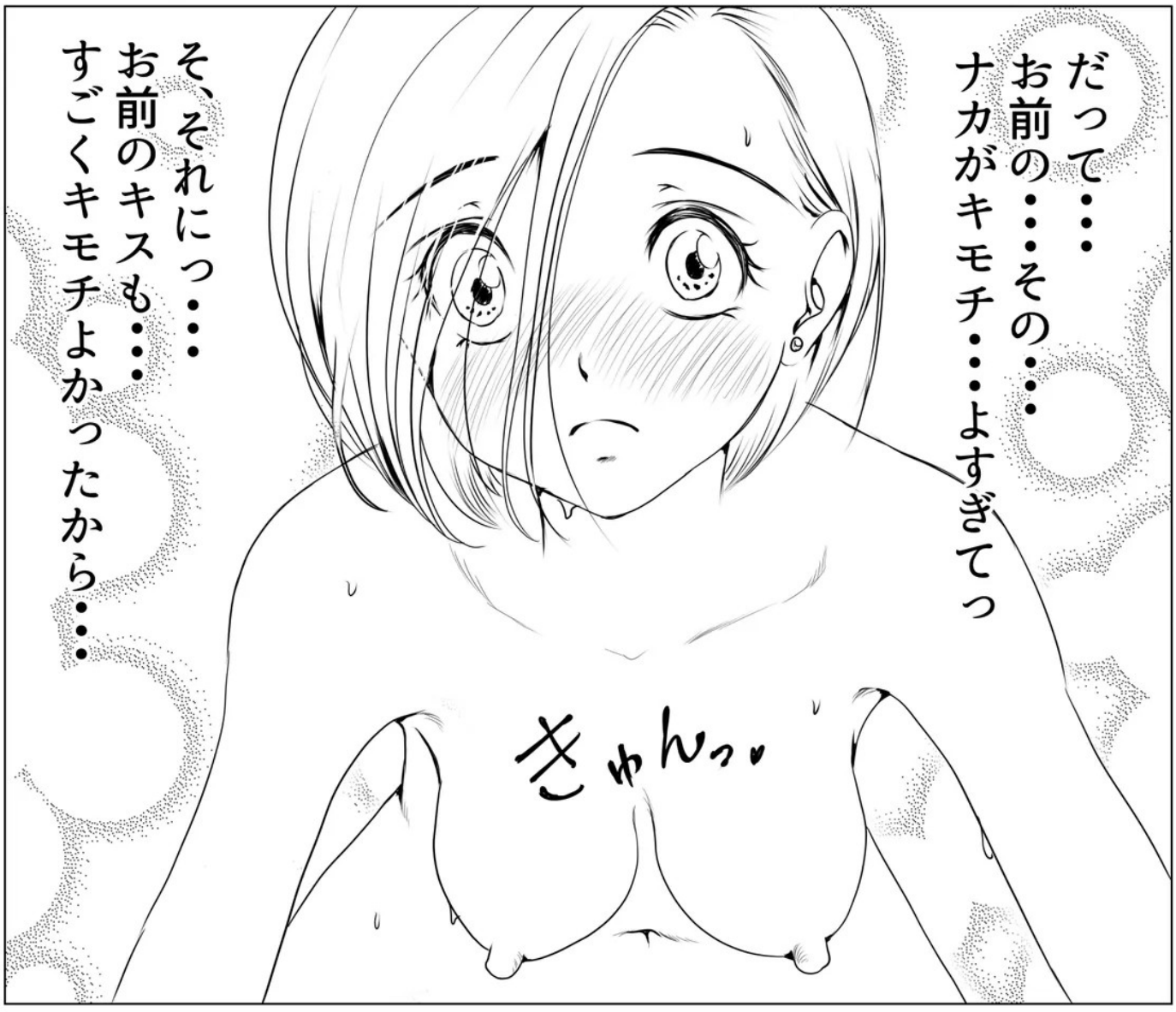

もっとキモチよくなろ・・・
シノブ・・・
ちゅっ♡
ちゅぷっ♡
はッ♡


はっ！はっ!!
シノブっ！僕っ！
も・・・もうでるっ！
へ？
ぐちっ♡
ぷちゅっ♡
ぬんっ♡
ぬちゅっ♡
アッ！
イクっ！イクうっ!!


ええっ！
ちょっ、早くない？
さっき出した
ばっかりじゃん！
アッ！
出る！出るうッ！
もうっ！
しょうがないなぁっ！
ぢゅぽっ
ビクッ
ビクンっ
ガク
ぎゅんっ!!
ガクッ


ビュルルッ
ビュグッ
ビュビュッ
びゅっ
あぁあっ


もー…
早いよ…
髪にもついちゃったじゃん…
ご…
ごめん…
ハァ
ハァ…


だって…
お前の…その…
ナカがキモチ…よすぎてっ
そ、それにっ…
お前のキスも…
すごくキモチよかったから…
きゅんっ。


じゃあ
おしおきっ！
ペロッ
ああんッ！


はっ！はっ！シノブっ！
まだチンコに精子ついてるっ！
ひとりだけ
イクのずるいー
イヤだからそれは
お前のが
キモチよすぎて・・・
パンッ
パンッ
ぺちんっ
はっ
はっ
あたしも
イキたいっ！
アキトのでっ！
シノブっ・・・
ぐちゅっ


あ・・・あの男勝りなシノブが・・・
こんなに腰を振って甘えてくるなんて・・・
ぷちゅっ
あん！あんっ♡
ぷちゅっ
ぷちゅっ
はあんきもちいい・・・
ぷちゅっ
ぷちゅっ
アキトっ・・・
アキトお・・・


シノブの腰が
別の生き物みたいに
動いてる
キモチいいところを
見つけたように・・・
あんッ
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ぱちゅっ
あん
あぁん
はああんっ！
お前・・・
こんなにも
オンナだったのか
シノブ・・・
それっ！
イイっ！
あん！あん！
来るッ！
きちゃうーッ！







シ・・・
シノブが・・・

ア・・・あらひ・・・
イ・・・イっひゃっら・・・

メスの顔に・・・

なんか・・・
すごいエロいっ！


そんな表情(カオ)されたらっ！
僕の本能(オス)が止まらなくなるッ！
ひゃんッ！
ゴッ
はあああっ！
シノブっ！
ずぶぶッ!!

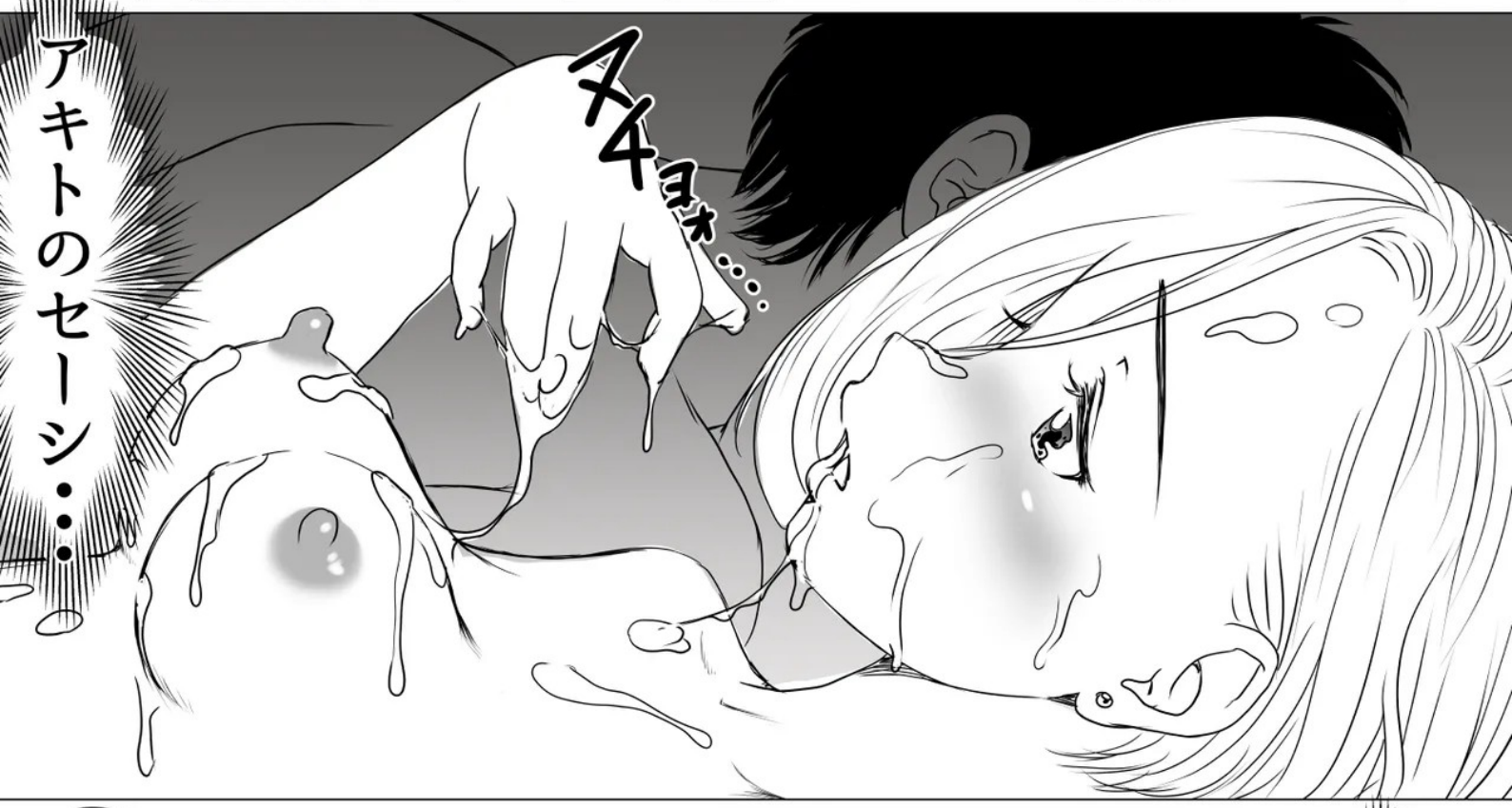

あっ！あっ！
待ってれっ
い・・今イッら
ばっかりらからっ！
そんな激ひく
ひたらっ！
ばちゅっ
ばちゅんっ!!
あっ！あらまっ
おかひくっ・・・なりゆっ！
ぐぐっ
ぱぁ
ずんっ
ズプン
きゅん！
ズプッ!!
きゅんっ
あっ・・・あらひっ
こわれっ・・・ひゃうよっ！
ああっ！
膣内がっ！
なかが
すごく
締まってっ！

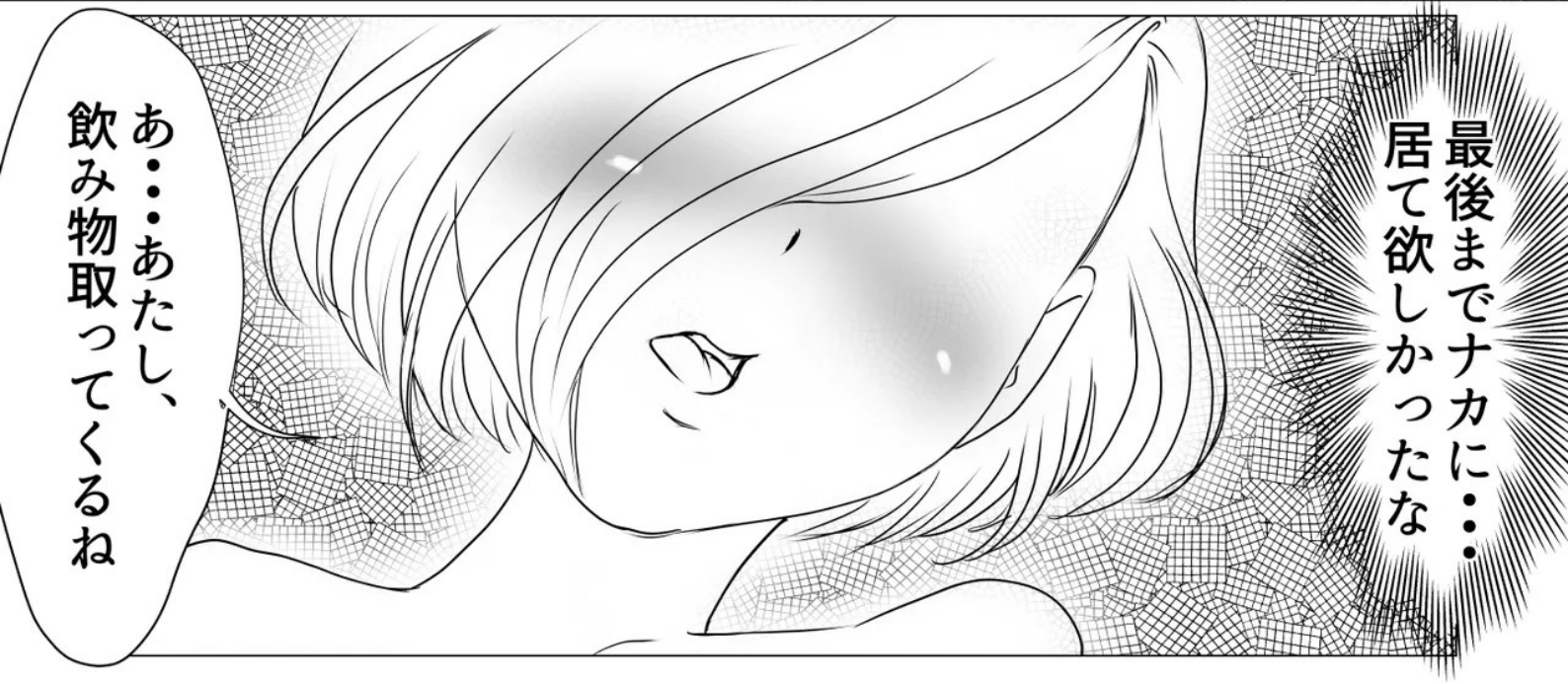

はああんっ！でもっ！
カラダが悦んでっ・・・るッ！
アッ！アッ！
アキトっ！もっとっ
もっと、来てっ！
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

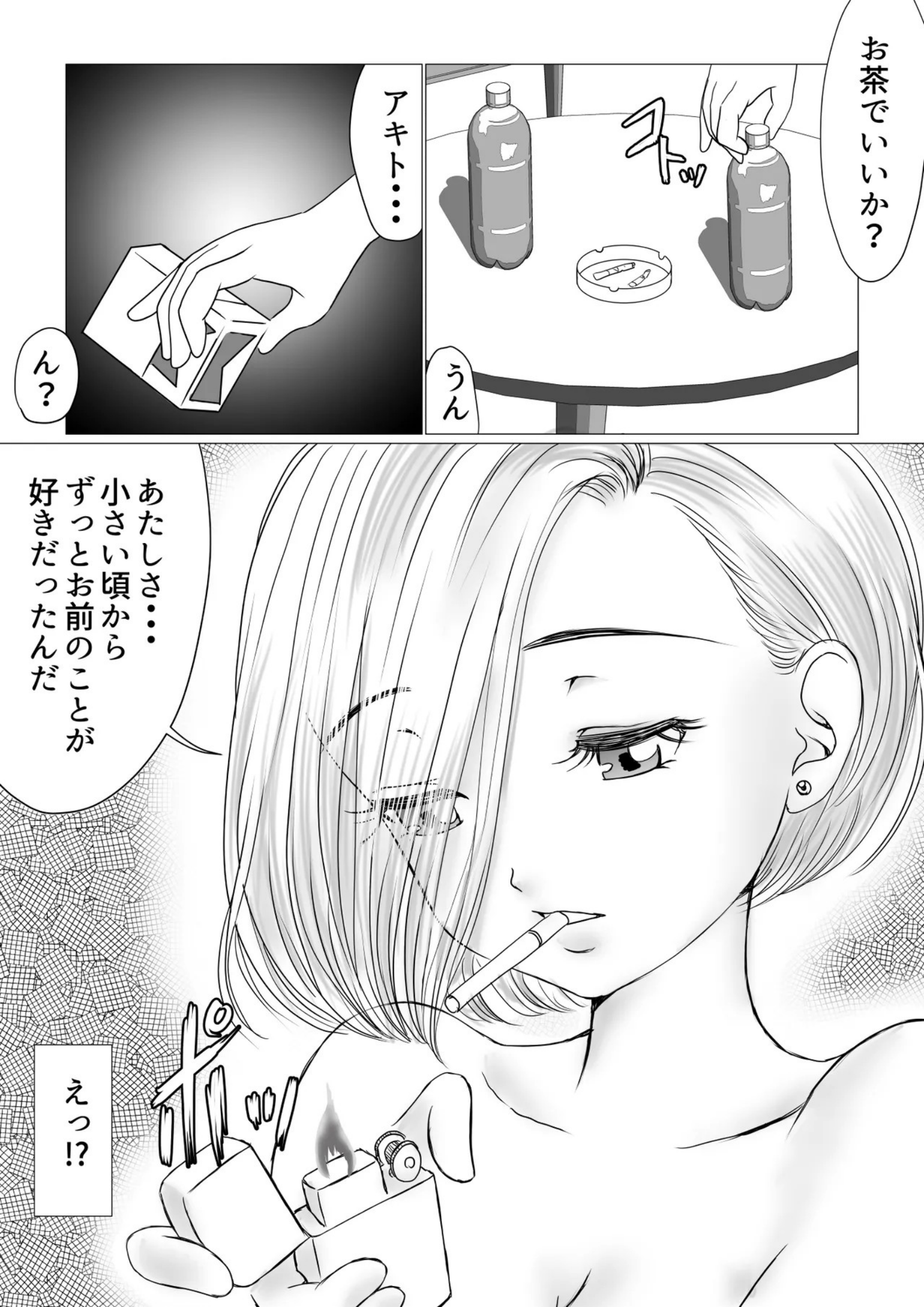

しっ・・・シノブっ！
ぞく…
ぞくっ!!
僕っ！もう、出るっ！
ぱぁ
ハッ♥ハッ♥
い・・・いいよッ！
ズプ
ズプ
ズプッ
ズプ
あたしもっ！またッ！
あっ！あん！来るっ！
来るう！
いっしょっ・・・
一緒にっ！イこっ！
こ・・・このまま
え!?先生っ！な・・・膣内っ！
なかダメっ！妊娠しちゃう！
雨宮・・・


ちくしょう・・
なんてこったこんな時に・・・
雨宮さんの・・・
あの時の事を
思い出しちゃうなんて・・・


ドサッ…
はっ
ハァン
ハァ


メリョォ…
アキトのセーシ…


最後までナカに…
居て欲しかったな
あ…あたし、
飲み物取ってくるね


お茶でいいか？
フッ
うん
アキト・・・
ん？
あたしさ・・・
小さい頃から
ずっとお前のことが
好きだったんだ
えっ!?

お前はあたしにすごく優しく接してくれた

フー…

だからお前のこと好きになったしあの時も…お前になら見せていいって思った

あたしの初めても…お前がよかった

え…はじめて…

だからお前が唯のこと好きだってわかった時は正直ショックだったよ

でも…


シちゃったね・・・
セックス


あ、そういえばお前
途中、唯のこと
考えてたろ？
え！
い、いや・・・
それは・・・
やっぱサイテーだな
お前・・・